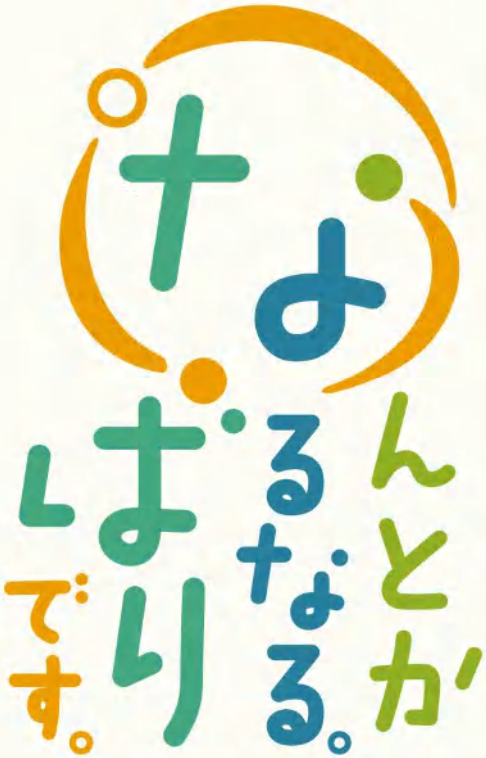


市民の皆さんとつくったロゴマークです。
人のつながりとあたたかさを力に、
「なんとかなるなる」と支え合い、
挑戦する人や元気になりたい人を受け入れる
名張の魅力を表しています。

なばり新時代戦略

第2次基本計画 （素案）

目次

表紙			
目次		……	2
序章	第2次基本計画の策定にあたって	……	3～6
第1章	本市を取り巻く現状	……	7～16
第2章	未来を動かすまちづくりの設計図	……	17～23
第3章	名張の未来を「おこす」重点プロジェクト	……	24～29
第4章	持続可能な暮らしを守り、未来を創る23の基本施策	……	30～53
第5章	これからの行政経営	……	54～56
第6章	地域ビジョンで動かす、15のまちづくり	……	57～72
第7章	巻末資料	……	73～98

序章　第2次基本計画の策定にあたって



ここでは、第2次基本計画をつくる背景や、
名張の未来に向けた考え方を紹介します。
人口減少などの社会情勢の変化を踏まえ、
「語れるまち なばり」の実現に向けて、
どのように計画を進めていくのかを見ていきましょう。

計画の策定にあたって

まちづくりの出発点となる、計画策定の背景と考え方をご説明します。

総合計画は、本市の最上位計画であり、各分野の行政計画の基本となる総合的な市政運営の指針です。
「なばり新時代戦略」の基本構想で掲げる基本理念と、10年後の目指すまちの姿を継続し、その実現のために第2次基本計画を策定します。
第1次基本計画期間での取組の成果や課題、人口減少をはじめとする社会情勢の変化に的確に対応し、次なるステップに向けた具体的な施策を推進します。

基本構想：2023（令和5）年度～2032（令和14年度）

基本理念

「語れるまち　なばり」

目指すまちの姿

**「変化をおこし　活力あふれ　みんなでつくる
大好きなまち　なばり」**

基本計画期間

第1次
2023（令和5）年度～ 2026（令和8）年度（4年間）

第2次
2027（令和9）年度～ 2030（令和12）年度（4年間）







第2次基本計画の策定方針

「基本計画」と「総合戦略」の統合

第2次基本計画では人口減少に対応する「総合戦略※1」を包含し、一つの戦略体系として再構築します。計画全体をとおして、「ウェルビーイングの向上」と、「人口減少を和らげる」「人口減少を見据えた」という人口減少対策の視点を置きます。
「ポジティブシュリンク※2 」の考え方に基づき、「人口が減少する社会であっても、暮らしやすさが保たれ、市民一人ひとりの心豊かな幸せが満たされ続けるまち」を目指します。

※1なばり新時代戦略（デジタル田園都市構想総合戦略版）
デジタル技術の活用によって、名張市の個性を生かしながら産業の活性化や名張の魅力向上、人口減少対策の取組を加速化・深化する計画です。

※2ポジティブシュリンク
急速に進む人口減少という現実を悲観的に捉えるのではなく、ポジティブに適応しながら地域社会をより良い方向へ縮小・最適化していく考え方（株式会社4DeeRが提唱）

施策体系の再編

第1次基本計画における目標の達成度合いを踏まえ、目指すまちの姿を実現するため、より効果的な施策間連携を促すことができるよう、構成単位を含めた施策体系を再編します。

「まちづくりの総合指標」の新たな設定

基本理念である「語れるまちなばり」に着実につなげていくため、総合計画全体の進捗を客観的に測る「まちづくりの総合指標」として、下記の3つを新たに設定します。

- 転出超過から転入超過へ
- 現在幸せだと感じている市民の割合
- 本市の住み心地について良好だと感じている市民の割合

計画の構成

本計画は、下記の内容で構成します。

- 本市を取り巻く現状（人口推移と将来推計など）
- まちづくりの総合指標
- 重点プロジェクト、基本施策、経営的施策
- 地域別計画

計画の進行管理

アクションプランの策定

施策の推進にあたっては、総合計画、財政、行政運営が
連動する仕組みを継続し、その過程をお示します。
第2次基本計画においては、基本計画に基づく具体的な
事業を示す「アクションプラン」を策定し、公表します。



進行管理の仕組

計画の進行管理は、基本計画を構成する最も基本的な
単位である「施策」を対象として行います。
市民意識調査を実施後、行政内部で計画の進捗状況を
検証するとともに、名張市総合計画審議会において、
行政内部での検証結果や総括について審議を行います。
市民の皆様には、ホームページ等を通じてその内容を
ご報告します。



第1章　本市を取り巻く現状



名張のまちでは、今どんなことが
起きているの？

名張には人と人とのつながりや豊かな自然などの
数字では計れない強みがある一方、
人口減少や年齢構成の変化などの課題もあります。
データと市民の声から、名張の「今」を見てみましょう。



名張のまちは、人と人のつながりでできている。

15地域の地域づくり組織

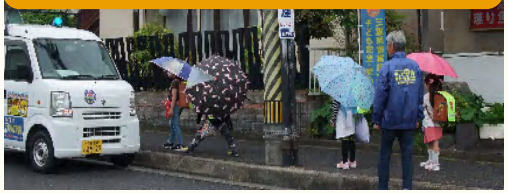
名張には15の地域づくり組織があり、
それぞれの地域特性を生かしたまちづくりを進めています。

地域の活動が暮らしを豊かに

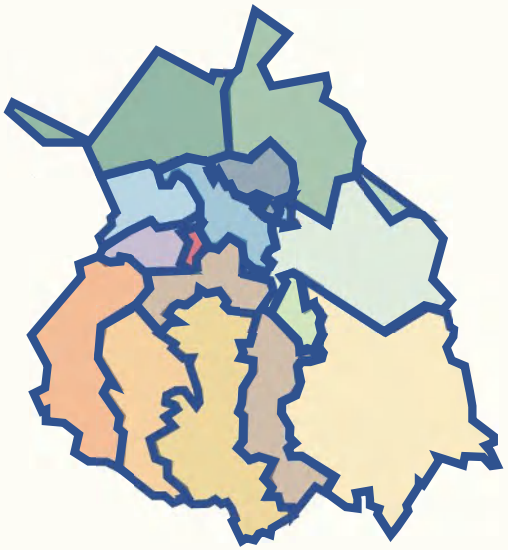


夏祭り納涼大会

みんなの力でまちをより良く

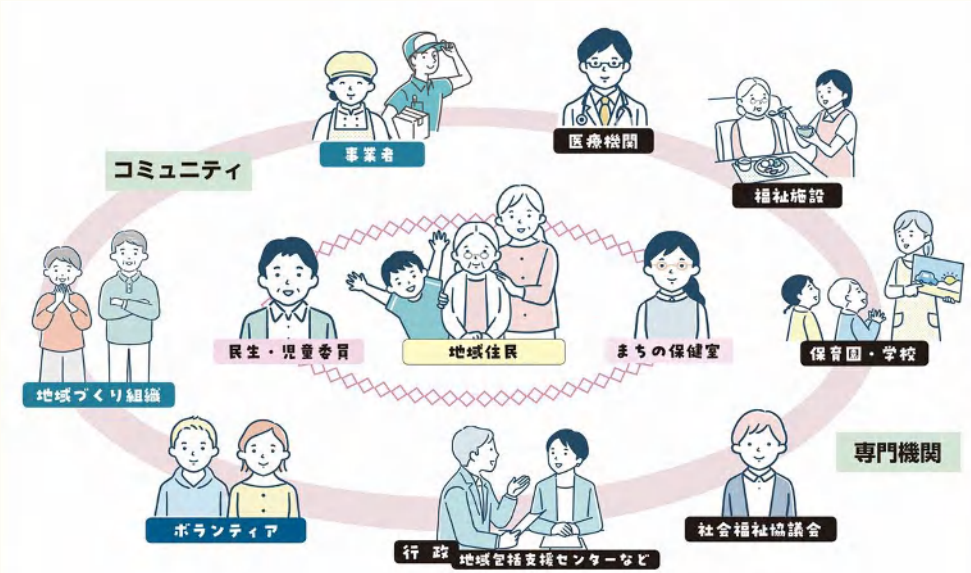


登下校の見守り活動



見守りネットワークで、安心をつなぐ

地域のみんなで見守り合い、誰もが安心して暮らせるまちを
目指しています。



人と人のつながりが、まちを元気にする力に

市民一人ひとりのつながりが、名張の未来をつくります。

ブランドロゴ創出ワークショップで意気投合した仲間などで開催の始まった「隠（なばり）BALIBALI NABARI fes」、通称「ばりフェス」を始め、若い世代を中心に名張を盛り上げようとそれぞれの取組を進める市民の姿があちこちで見られます。



第1次基本計画期間で見えた「確かな一歩」と「向き合う課題」

第1次基本計画期間を振り返ると、成果が見える一方で、市民の皆さんから、日々の暮らしに関わる課題が寄せられています。

✔ 確かな一歩

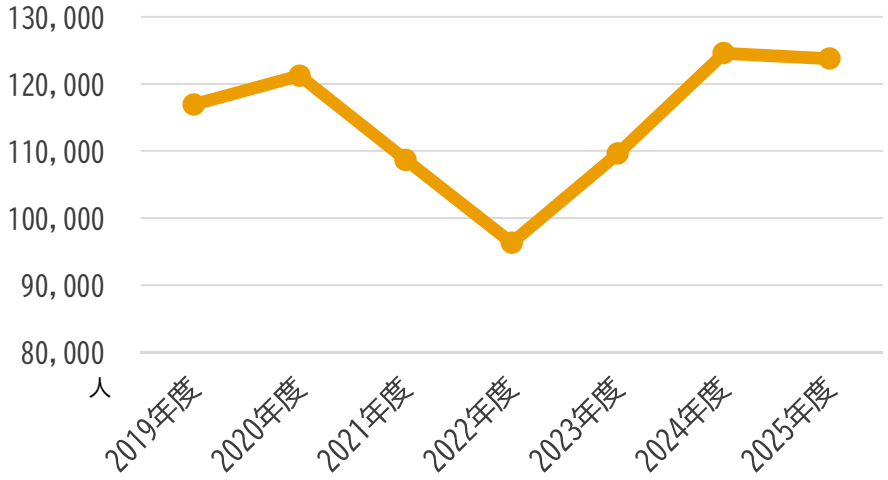
第一次基本計画で重点プロジェクトとして掲げた取組について、ともに一定の成果が出ました。

・地域資源を活用した観光分野の取組の結果、赤目四十八滝への**観光客数は回復基調**にあります。

・まちづくりに主体的に取り組み、にぎわいをおこすための挑戦をする市民の皆さんの姿が、**シティプロモーションアワード**※で**金賞**という形で評価されました。

※地域に関わる人々の「幸せ」につながる的確なシティプロモーションに取り組む地方自治体等を称え、応援する取組です。単なる知名度向上だけでなく、住民の愛着醸成や持続可能な地域づくりに貢献した事例に光を当て、全国へその知見を広めることを目的として、2021年から開催されています。

赤目四十八滝への観光入込客数



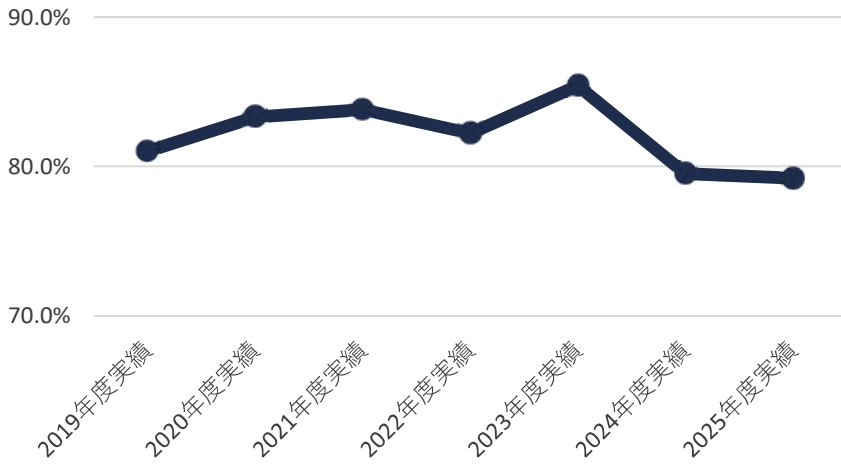
▼ 向き合う課題

「今後も名張に住み続けたい」という**定住意向**の変化がみられます。

・**中学校給食の実施**や**地域医療体制の充実**など、市民の皆さんから寄せられている課題があります。

・生活に直結する**移動手段の確保**についても不安の声が寄せられています。

今後も名張市に住み続けたいと感じている市民の割合



市民の声から見えてくるもの～暮らしの安心と未来への期待～

市民の「暮らしの実感」に向き合い、愛着と誇りを持てるまちへ。

**市民意識調査や高校生・高専生アンケート、またそのほかの様々な場面でいただいた
市民の皆様の思いや提言を、
これからのまちづくりを推進する道しるべとします。**

第1次基本計画期間において市民意識調査では、
長年高い水準を維持してきた「住み心地」や定住意向の低下が見られ、
人口減少や地域の変化への懸念が示されています。
子育て・医療・地域の交通や賑わいなど「身近な生活基盤の維持・向上」を求める切実な声とともに、「名張の強みを活かして未来へつなごう」という前向きな提言も寄せられています。
これらの声に応え、市民の満足度と幸福感（ウェルビーイング）を高める取組を進めます。

市民の不安

定住意向の変化

住み心地が良好と感じる割合が低下傾向です（85.0%→78.6%）。
生活環境の変化や将来への不安から、定住意向の変化が見られます。

市民の本音

暮らしの安心・充実の声

子育て環境や医療の充実、駅周辺の活性化や移動手段の確保など日々の暮らしに身近な「安心」を求める声が強く現れています。

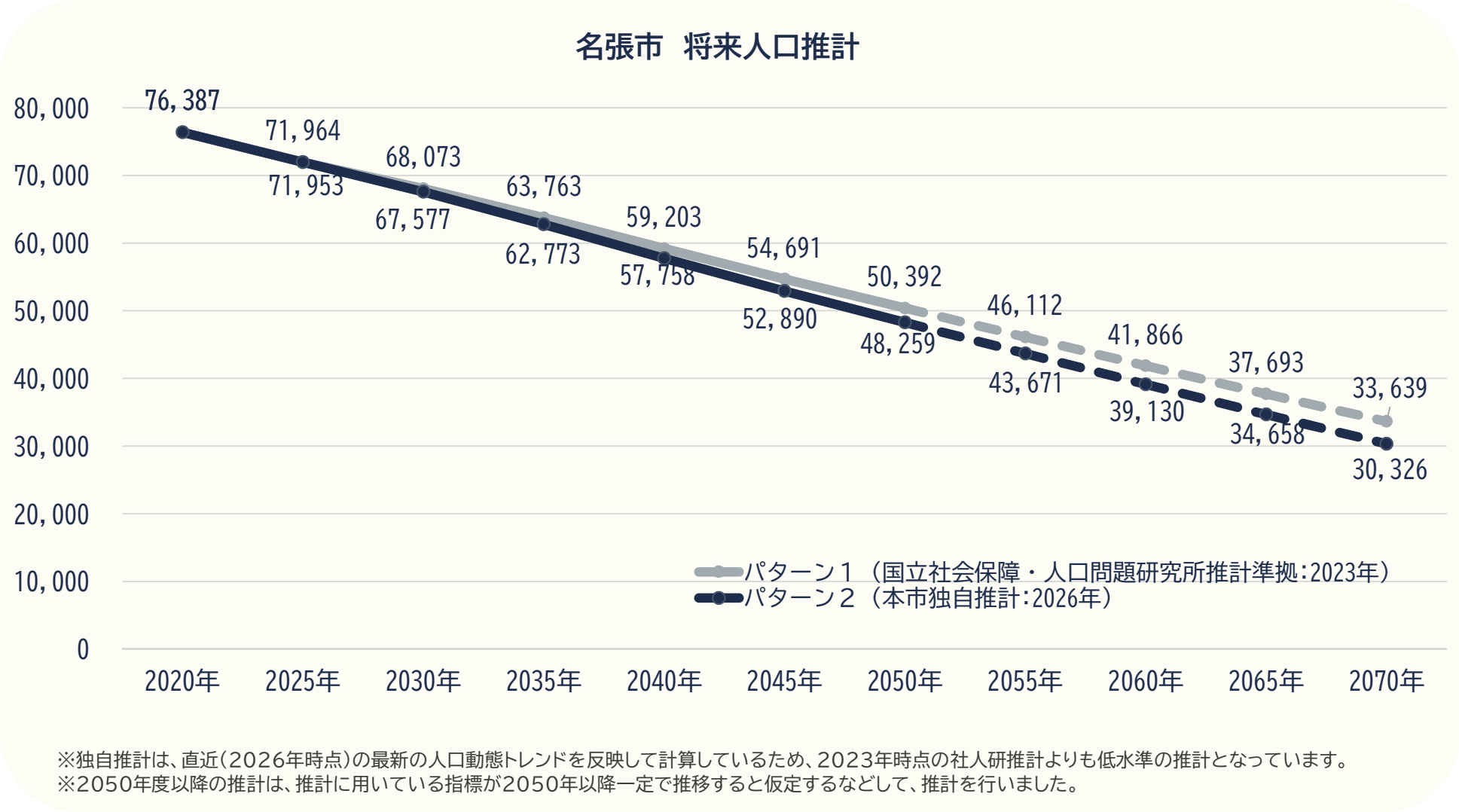
市民の希望

未来へつなぐ前向きな声

名張の豊かな自然や「人と人とのつながり」といった地域の強みを活かし、より良い未来へつなげたいという意向も見られます。

人口推移と将来推計～人口減少の推移と第2次基本計画への課題～

本市の人口は減少局面を迎えています。
この現実を真摯に受け止め、「人口減少を和らげる取組」と「人口減少を見据えた取組」の両輪で、
持続可能なまちづくりに取り組みます。



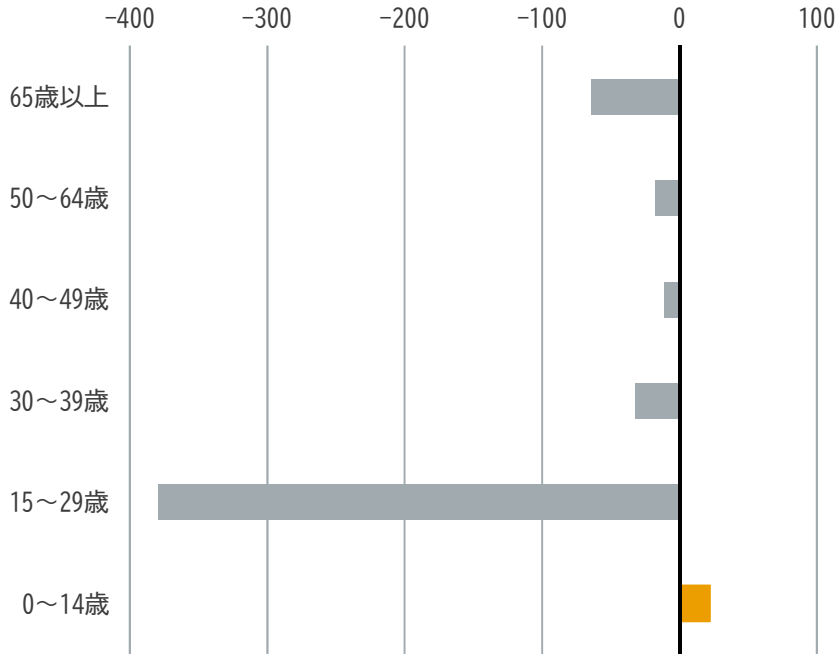
※独自推計は、直近（2026年時点）の最新の人口動態トレンドを反映して計算しているため、2023年時点の社人研推計よりも低水準の推計となっています。
※2050年度以降の推計は、推計に用いている指標が2050年以降一定で推移すると仮定するなどして、推計を行いました。

転出入の状況を分析する～年代別・地域別の移動パターン～

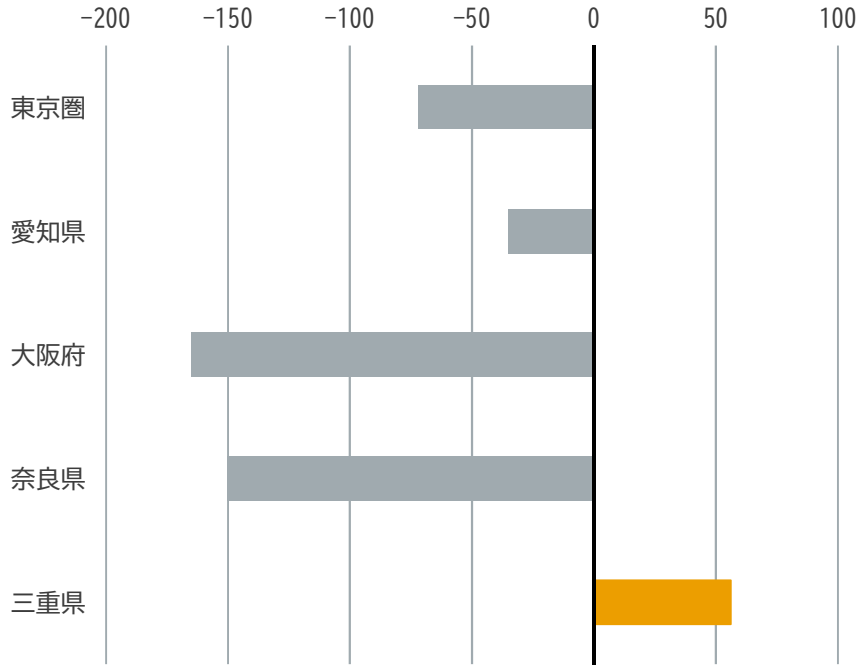
若い世代の都市圏への流出という課題に向き合いながら、本市が持つ強みを次期計画の施策へと結びつけます。

本市の転出入状況を見ると、進学や就職を迎える若者（15～29歳）を中心に、大阪府や奈良県など都市部への転出超過が続いており、
この状況が定住意向の変化にも影響をもたらしていると考えられます。
一方で、近隣の伊賀市をはじめ三重県内からは継続して転入超過となっており、通勤・通学の利便性や市内の住宅事情を背景として
子育て世代の転入・定着も見られるなど、「住まい」や「暮らしやすさ」としての魅力は一定の評価を得ています。
今後も、若い世代の定住促進と、子育て世代の移住・定着に取り組みます。

年代別　転出入差引（令和７年）



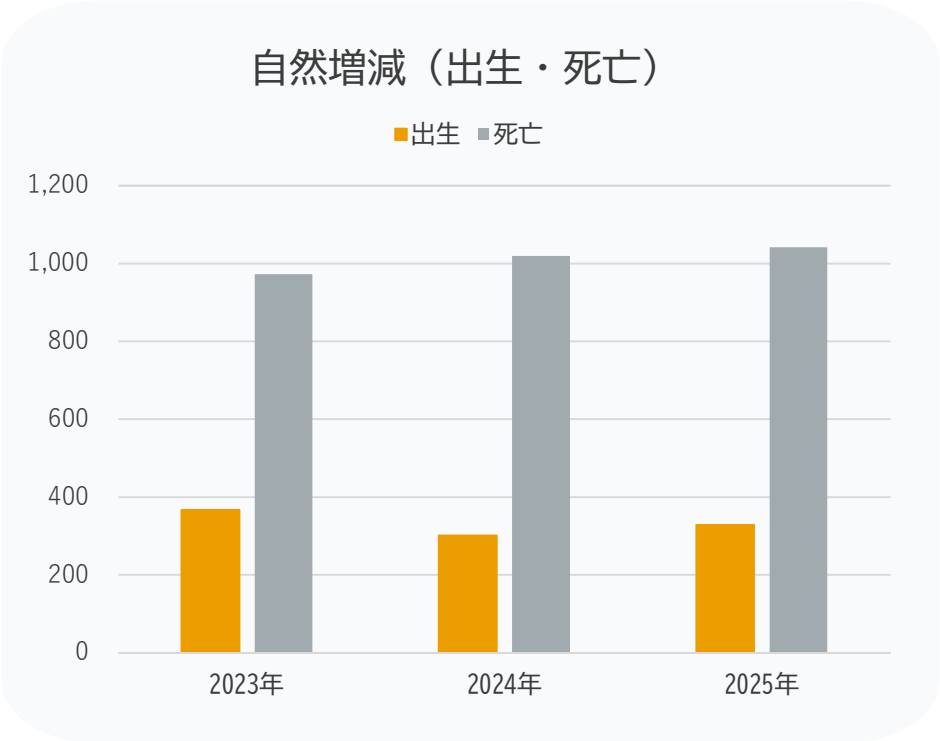
地域別　転出入差引（令和７年）

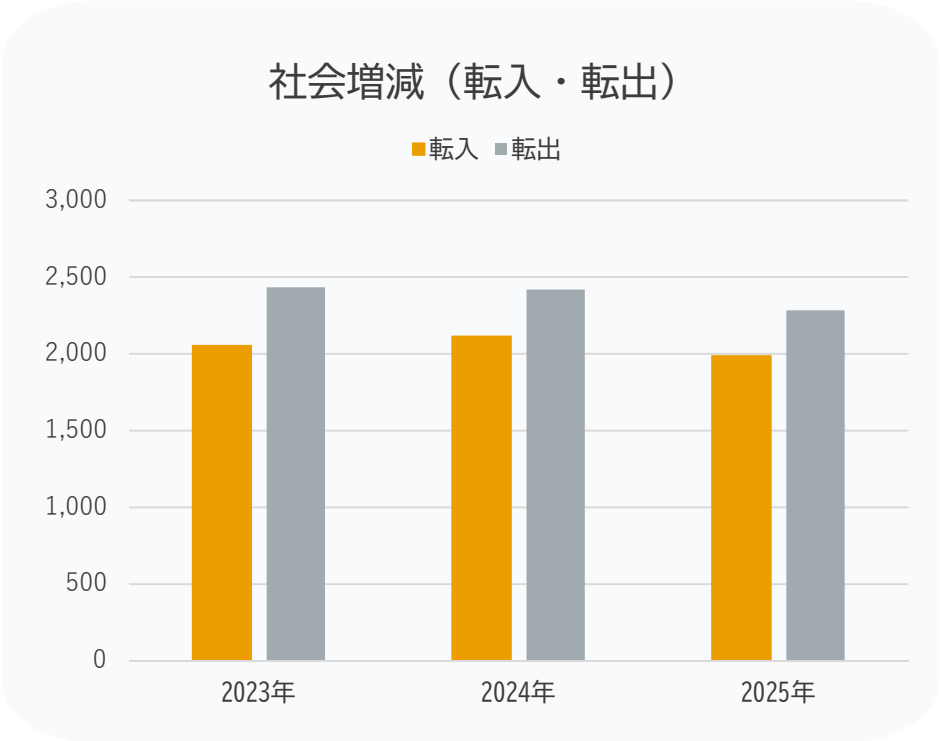


人口減少の構造を理解する～自然減と社会減の推移～

「生まれる子より亡くなる方が多い」ことと、「入ってくる人より出ていく人が多い」こと。

本市では年間約1,000人の人口減少が生じており、その内訳は自然減が約700人、社会減が約300人となっています。

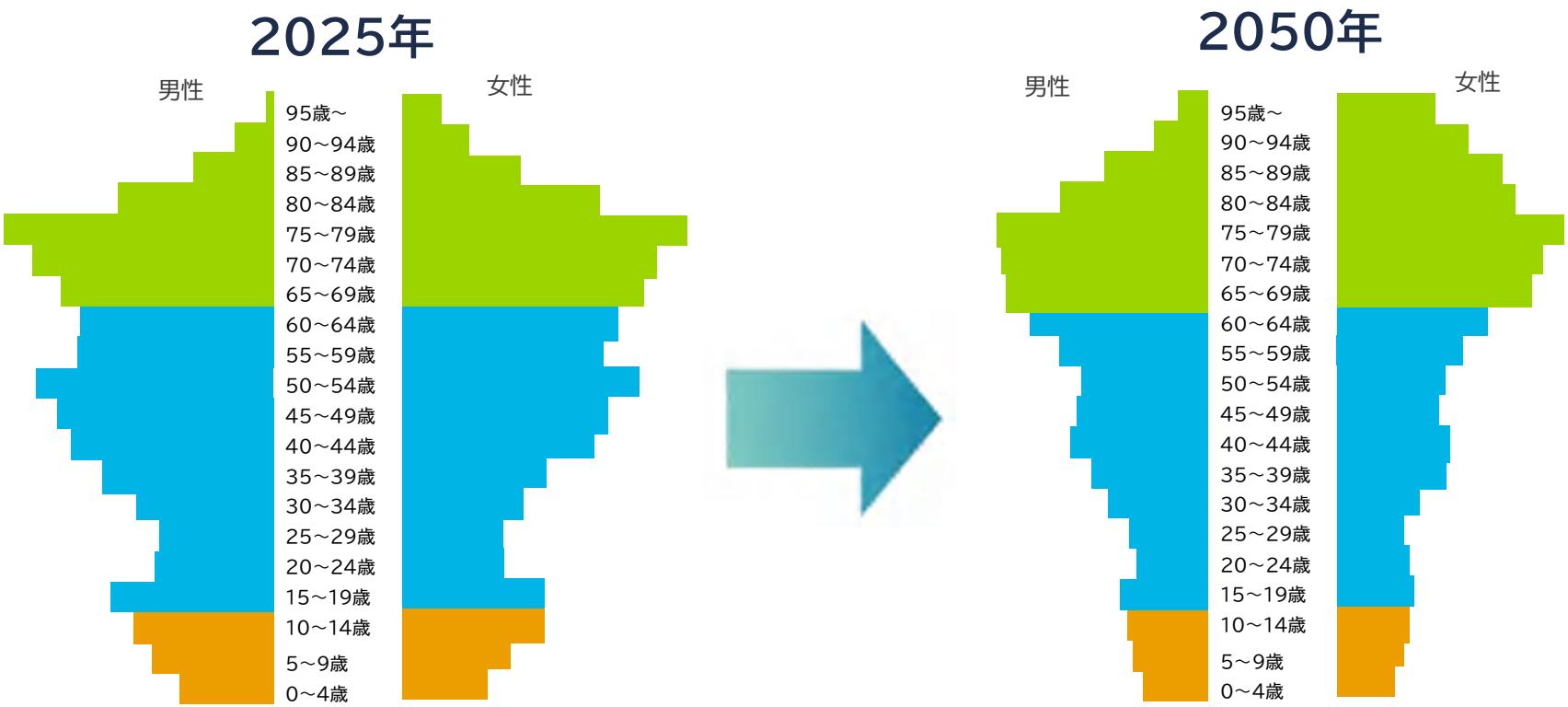




出生数や転入者の大幅な増加が見込めない中で、
人口が減っても安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。

人口構造の変化を見る～年齢バランスの変化とこれからの地域社会～

本市の人口構造は、大きく変わろうとしています。
子どもや働き手が減る一方で高齢化が進む中、地域社会の活力や行政サービスの維持に取り組む必要があります。
名張での暮らしを維持するため、行財政改革を徹底し、
第1次基本計画から継続して、分野を超えた施策間連携にさらに取り組みます。



少子化と
生産年齢人口の減少

高齢化の進行

地域社会の活力や
行政サービスの維持が
課題に

直面する課題を乗り越え、「暮らしやすさと幸福が実感できるまち」へ

年間約1，000人の人口減少や年齢バランスの変化という現実は、私たちが今すぐ次の一歩を踏み出すべき確かなサインです。まちの姿が変わっても、市民一人ひとりが「名張に住んでよかった」と幸せ（ウェルビーイング）を感じられる未来へ向けた計画を実行していきます。



未来を動かすまちづくりの設計図

5つの
重点プロジェクト「おこす」

- 子育て・若者支援の充実
- 地域の賑わい創出
- 地域経済の活性化
- 安心の生活基盤
- 行財政改革

基本施策

すすめる　ささえる　ととのえる　まもる　はぐくむ　つなぐ　つくる

本市の最大の財産である「人と人とのつながり」を基盤に、未来の活力を「おこす」5つの重点プロジェクトと、暮らしを支える「7つの動詞」の基本施策を連動させます 。

まちづくりの歩みを確かめる3つの総合指標

人と人とのつながり、豊かな自然、そして暮らしの中にある挑戦。
名張らしい魅力を大切にしながら、安心して暮らせる毎日と、わくわくする未来を目指し、
まちづくり全体の進捗を測る3つの総合指標を設定します。

転出超過から**転入超過**へ

-298人
令和7年度実績値

▼▼▼

100人

人口の流出を抑え、県内や都市圏から選ばれるまちとしての成果を測ります。

現在**幸せ**だと感じている市民の割合

73.0%
令和7年度実績値
（全世代平均）

▼▼▼

80.0%
全世代80%超を目指し、
すでに80%超の世代については維持

名張の最大の財産である「人のつながり」が、一人ひとりの幸福感に繋がっているかを測ります。

住み心地が良好だと感じている市民の割合

78.6%
令和7年度実績値
（全世代平均）

▼▼▼

80.0%
全世代80%超を目指し、
すでに80%超の世代については維持

生活環境の利便性や安心感が、住民の実感として満たされているかを測ります。

第2章　未来を動かすまちづくりの設計図



名張の未来をつくるための、
道すじを知りたいな。

重点プロジェクト「おこす」を原動力に、
23の基本施策と行政経営の取組をつなぎます。
名張の未来を動かす、まちづくりの全体像を見てみましょう。



戦略的なまちづくりの視点

5つの重点プロジェクト「おこす」を
基本施策の両輪を動かす変革のエンジンとして位置付けます。

安心な日常を支える「暮らしを守る」取組と、次の時代を切り拓く「未来を創る」取組で
基本施策を構成します。



重点プロジェクト「おこす」～名張の活力を「おこす」5つの重点分野～

各分野が循環し重なり合うことで、持続可能な活力を生み出します。
効果的な行財政改革を強固な土台とし、この循環を力強く下支えします。



子育て・若者支援の充実

若者・子育て世代に選ばれるまちへ。妊娠前・妊娠期・出産から子育てまでを地域一体で切れ目なく支え、未来を創る学びの環境を整えます。

地域の賑わい創出

官民一体で賑わいを創り、まちの元気を未来へつなぎます。
名張の魅力を磨き発信し、関係人口や移住定住を促進します。

地域経済の活性化

企業の元気な活躍と新たな挑戦を支え、多様な働き方を創出。
力強い経済循環で、誰もが活躍できるまちを目指します。

安心の生活基盤

地域一体で移動手段や医療、防災の基盤を守り、誰もが住み慣れた場所で暮らし続けられる、確かな安心を創ります。

行財政改革

変化に対応し挑戦する行政へ。
行政運営と財政基盤を最適化し、「暮らしを守り、未来を創る」施策を推進していくために下支えします。

基本施策

安心な日常を支える「暮らしを守る」取組

市民の皆さんが今、名張で安心して暮らし続けるための、4つの行動方針です。
福祉、医療、防災、インフラの維持など、生活に直結する基盤をしっかりと守ります。

暮らしを守る

生活基盤の維持と適正化により、
地域の持続性を担保します。
インフラのスマートな維持を通じて
「ここで暮らし続けられる安心感」を
提供し、人口流出を抑制すると
ともに、平穏で安定した日常生活を
確保します。



すすめる

安心と未来の土台を着実にすすめているまち

「すすめる」とは、前進させること、更に高めること。安定や堅実を表す「茶色」を使用し、消防・救急体制や土地利用などの取組をすすめます。

ささえる

健やかな日常がささえられているまち

「ささえる」とは、維持すること、支援すること。安心や信頼を表す「青色」を使用し、健康や地域医療などをささえます。

ととのえる

暮らしの営みと住環境がととのっているまち

「ととのえる」とは、点検して望ましい状態にしておくこと。バランスや成長を表す「黄緑色」を使用し、スポーツ環境や活動の憩いの場となる緑地や公園などをととのえます。

まもる

かけがえのない日常と尊厳がまもられているまち

「まもる」とは、大切なものとして保護する、大事に保つこと。安全や平和を表す「緑色」を使用し、人権や生活の環境などをまもります。

基本施策

次の時代を切り拓く「未来を創る」取組

名張の豊かな財産を次の世代へ引き継ぎ、新たな価値を創造するための3つの行動方針です。
子育て・教育環境の充実、産業振興、地域活性化など、人と人とのつながりを活かして前向きな変化を生み出します。

未来を創る

地域の価値創造と吸引力を最大化
します。多様な主体を惹きつけ
「名張に住む理由・関わる理由」を
提供することで
定住と関係人口の創出を促進し、
挑戦や愛着、あたたかなつながりを
通じて、心豊かな暮らしを実現します。



はぐくむ

次代を担う子どもと地域の産業が共にはぐくまれているまち

「はぐくむ」とは、大事に守って育てること。優しさや愛情を表す「桃色」を使用し、子どもに関する施策や産業の活性化などをはぐくみます。

つなぐ

支え合いと誇りを未来の世代へつないでいるまち

「つなぐ」とは、引き合わせる、ひとつづきにすること。希望や明るさを表す「黄色」を使用し、地域の保健・医療・福祉やまちを次世代につなぎます。

つくる

豊かな風土と現代のくらしが、調和してつくられているまち

「つくる」とは、形あるものないものに限らず何かを生み出すこと。ぬくもりや活発さを表す「橙色」を使用し、誰もが幸せに暮らせる社会や農村の新たな価値などをつくります。

経営的施策

市民とともに歩むための4つの行政基盤

すべての施策を市民の皆さんと「共創」し、効果的に施策を推進していくための行政の取組です。

1 多様な主体との共創

行政が全体をつなぐプラットフォームとなり、多様な主体が自発的にまちづくりに取り組める環境を構築します。

- 公民連携の推進
- 広域連携の推進

2 行政改革（行政事務の効率化）

効率的で持続可能な市役所運営を進め、誰もが快適で便利なサービスを受けられる状態を目指します。

- 持続可能な行政運営の推進
- DXの推進と市民サービスの利便性向上

3 行政経営（財政・施設・組織）

将来世代に負担を先送りしない持続可能な行財政運営を目指します。

- 持続可能な財政運営の推進
- 公共施設マネジメントの推進
- 組織・職場環境の整備

4 広報・広聴

市の未来とビジョンを市民と共有し、双方向の対話で施策運営へつなぎます。

- すべての市民へ「伝わる」広報の実践
- 対話から施策へつなぐ双方向の広聴

施策体系の全体像

未来を動かすまちづくりの全体設計図

重点プロジェクト「おこす」を強力な原動力（エンジン）とし、7つの動詞に紐づく23の施策を展開します。
分野や部局の壁を越えた戦略的な連携により、持続可能な名張を形づくります。

子育て・若者支援の充実
地域の賑わい創出
地域経済の活性化
安心の生活基盤

行財政改革

暮らしを守る

すすめる　ささえる　ととのえる　まもる

- 地域福祉の推進と地域共生社会の実現
- 保健・健康づくりと地域医療の確保
- 高齢者福祉と介護予防の推進
- 障害者福祉と自立支援の推進
- 防災・減災と消防・救急体制の強化
- 防犯・交通安全と生活安全の確保
- 快適な住環境の維持と空家対策
- 道路等の整備・維持管理
- 上下水道の安定運営
- 生涯スポーツと憩いの空間づくり
- 生活環境の保全と衛生維持

重点プロジェクト
おこす

未来を創る

はぐくむ　つなぐ　つくる

- 子ども・子育て支援の推進
- 学校教育の充実
- 青少年育成・生涯学習の推進
- 地域協働・持続可能な住民自治
- 商工業の振興と雇用創出
- 農林業の振興と豊かな自然の保全
- 観光産業の振興とまちの賑わい創出
- シティプロモーションによるまちの元気創出
- 文化・歴史の継承と文化芸術振興
- 人権尊重・多様性尊重のまちづくり
- 魅力ある都市空間と交通ネットワーク形成
- 脱炭素・資源循環型社会の推進

経営的施策
1 多様な主体との共創
2 行政改革（行政事務の効率化）
3 行政経営（財政・施設・組織）
4 広報・広聴

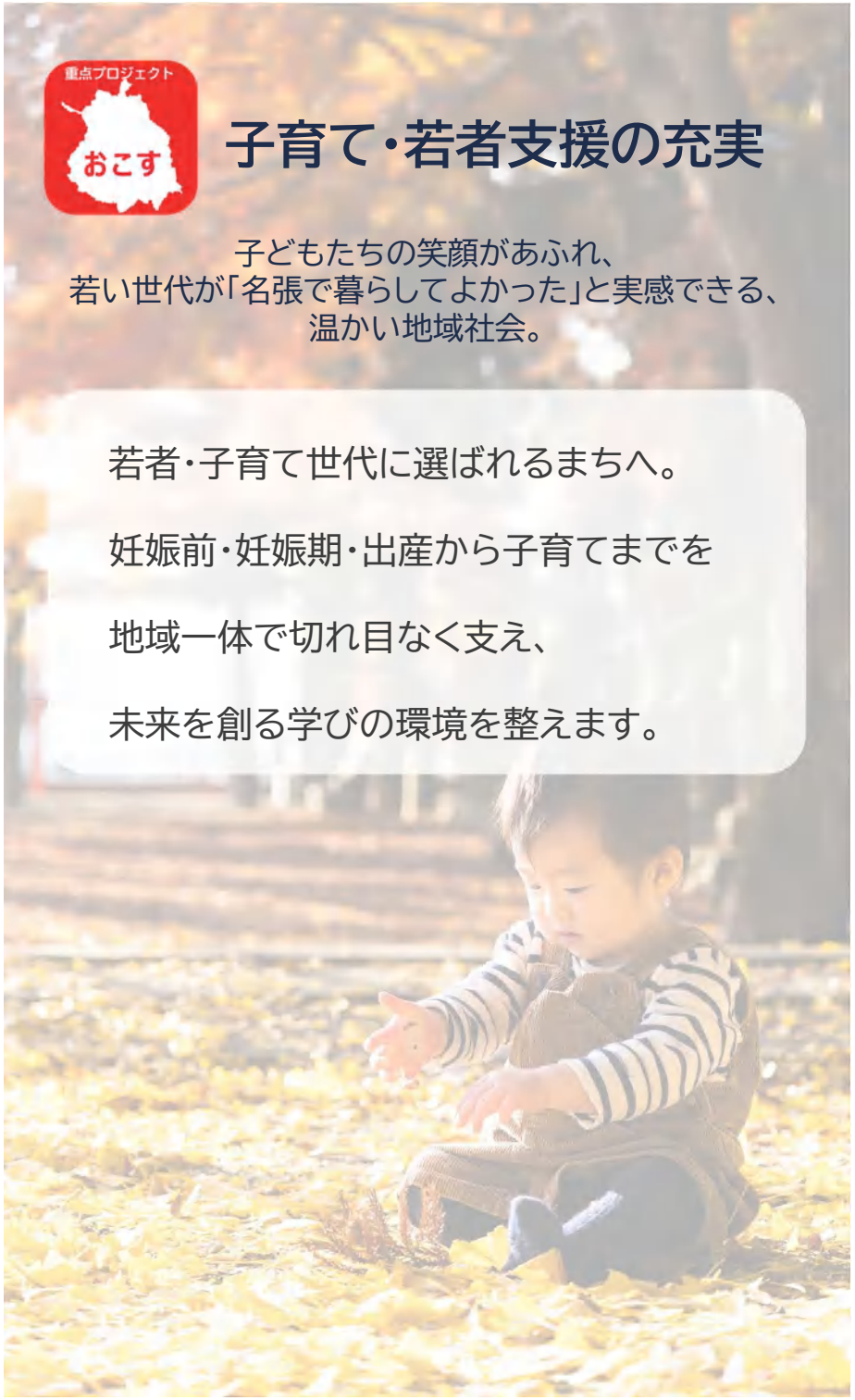
第3章　名張の未来を「おこす」重点プロジェクト



名張の未来を「おこす」って、
どういうこと？

子育て・若者支援、地域の賑わい、地域経済、安心の生活基盤、
行財政改革の５つの重点分野で、
名張に新しい変化や活力を生み出していくことです。





重点プロジェクト
おこす

子育て・若者支援の充実

子どもたちの笑顔があふれ、
若い世代が「名張で暮らしてよかった」と実感できる、
温かい地域社会。

若者・子育て世代に選ばれるまちへ。

妊娠前・妊娠期・出産から子育てまでを

地域一体で切れ目なく支え、

未来を創る学びの環境を整えます。

切れ目のない子育て支援の充実

妊娠前から子育て期までの様々なニーズに応え、

一人ひとりに寄り添う伴走型支援を充実させます。

小学校給食の安定的な提供を継続するとともに、
令和11年9月の中学校給食開始に向け、
給食センターの整備を着実に進め、子どもたちの
健やかな成長を支えます。

妊産婦、乳幼児への支援に満足している
市民の割合

38.3%（令和7年度）　▶▶▶　67.2%（令和12年度）

給食センター運営開始予定

令和11年9月

若者の学びと挑戦を支える環境づくり

若者が安心して過ごせる居場所づくりを進め、

社会とつながる多様な活動への参加を応援します。

子どもたちが地域の魅力に触れ、ふるさとへの

愛着と誇りを育む学習を推進します。

Nabaりnkを応援してくれている
企業・団体・個人の数

10者
（令和12年度）

高校生・高専生の
地域で学ぶ取組状況

取組内容を
ホームページ等で紹介

未来を見据えた育ちと学びの環境づくり

未来を担う子どもたちのために、
これからの時代に応じたより良い学校のあり方を
検討し、その実現に向けて着実に取組を進めます。

子どもたち一人ひとりが自分の良さに気づき、

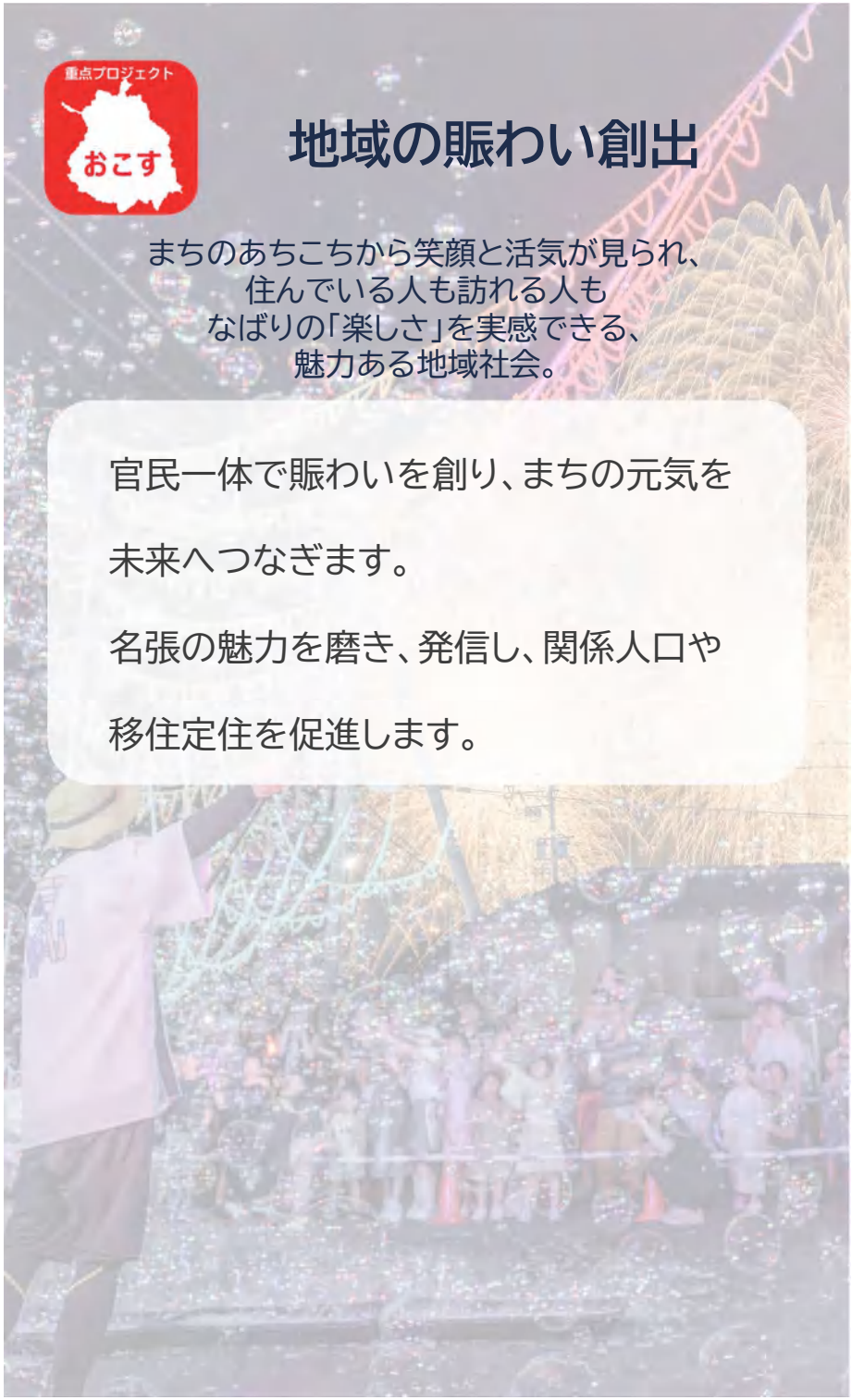
自信を持って成長できる教育環境を整えます。

「名張市未来のよりよい学校の在り方
基本計画（仮称・案）」の策定と、
その実行に向けた進捗状況

名張市ホームページ
「未来のよりよい学校の在り方検討審議会」

「自分にはよいところがある」と思う
児童・生徒の割合（全国学力・学習状況調査）

（小学校）83.8%　（中学校）85.9%（令和7年度）　▶▶▶　（小・中学校）87.0%（令和12年度）



重点プロジェクト
おこす

地域の賑わい創出

まちのあちこちから笑顔と活気が見られ、
住んでいる人も訪れる人も
なばりの「楽しさ」を実感できる、
魅力ある地域社会。

官民一体で賑わいを創り、まちの元気を
未来へつなぎます。
名張の魅力を磨き、発信し、関係人口や
移住定住を促進します。

名張の魅力を活かした交流人口・関係人口の拡大

自然や歴史、人々の営みなど、
このまちにしかない多彩な魅力を効果的に発信し、
名張を知り、関心を持ち、移住や地域との関わりに
つながるきっかけをつくります。

この土地ならではの歴史や自然を活かし、
市外からも「訪れたい」と思われる
魅力的なまちづくりを進めます。

移住・シティプロモーションサイトの
アクセス数

22,000回（令和7年度） ▶▶▶ 28,000回（令和12年度）

観光入込客数

997,821人（令和7年度） ▶▶▶ 1,021,000人（令和12年度）

つながる交流の拠点づくり

誰もが気軽に集い、新たな交流が生まれる居心地の
良い空間を創出します。

官民が連携し、訪れる人と地域で活動する人が
交わり、新たな賑わいや挑戦、交流が生まれる
仕組みづくりを支えます。

賑わい創出拠点整備事業の
進捗状況

令和11年度　**親水公園供用開始**
まちなか整備実施

まちなかで開催される
イベント参加者数

105,000人（令和7年度） ▶▶▶ 110,000人（令和12年度）

市民との共創による魅力づくりの推進

市民や事業者など、多様な主体と連携し、
まちへの愛着を育む活動を支援します。

世代を超えた交流が生まれるコミュニティ活動を
促進し、市民の皆さんの主体的な地域参加を
応援します。

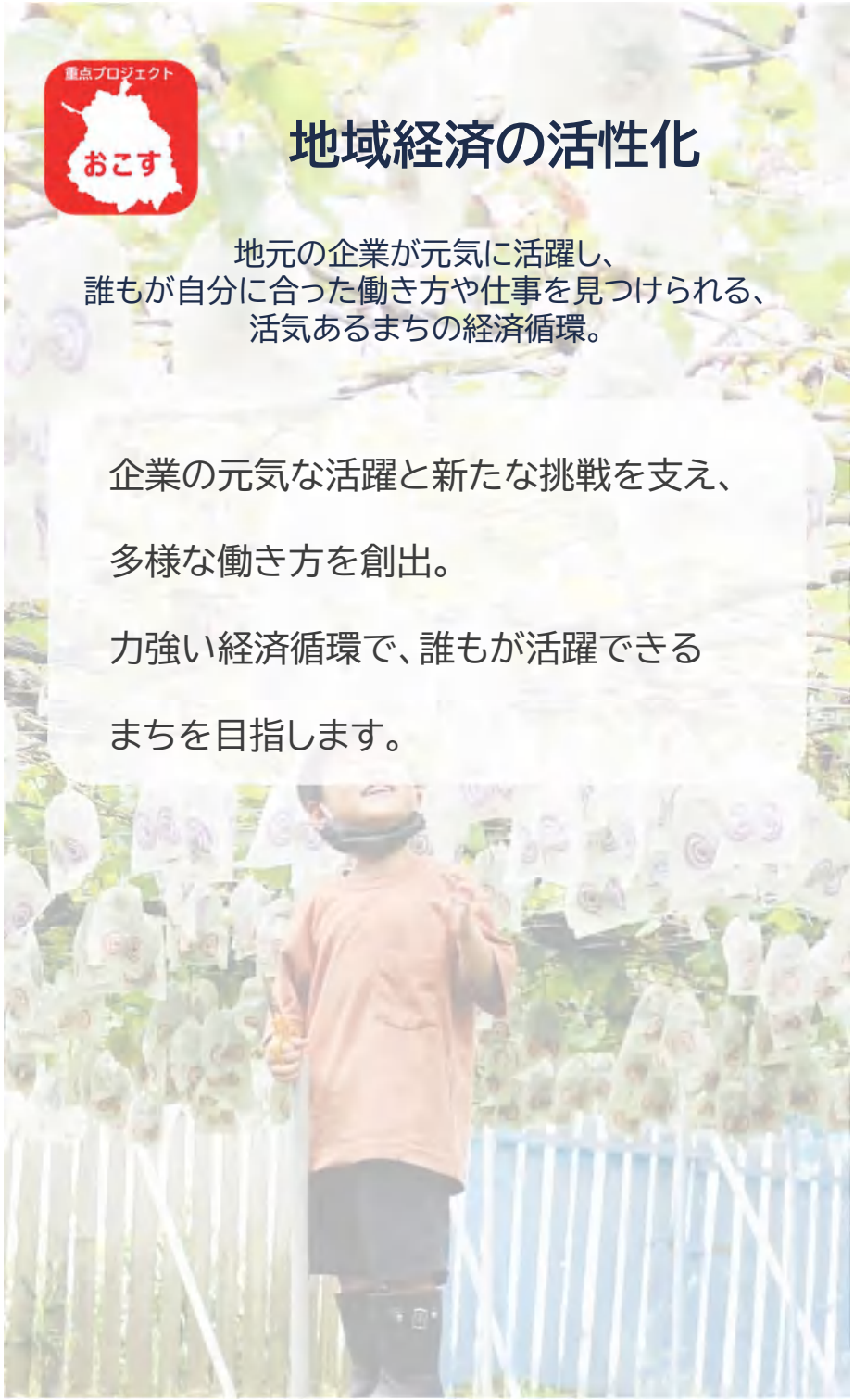
なばらぶ指数※

※市民意識調査における「地域推奨意欲」「地域活動意欲」
「地域活動感謝意欲」の平均値を算出した数値

39.3らぶ（令和7年度） ▶▶▶ 42.0らぶ（令和12年度）

地域ビジョンに掲げられている各種事業や
地域づくり組織・区・自治会などの活動に
参加したことがある市民の割合

48%（令和7年度） ▶▶▶ 60%（令和12年度）



重点プロジェクト
おこす

地域経済の活性化

地元の企業が元気に活躍し、
誰もが自分に合った働き方や仕事を見つけられる、
活気あるまちの経済循環。

企業の元気な活躍と新たな挑戦を支え、
多様な働き方を創出。
力強い経済循環で、誰もが活躍できる
まちを目指します。

地場産業や市内企業の持続的成長支援

市内企業の事業拡大や新技術の導入を後押しし、
生産性の向上を支援します。

市内企業の経営安定化を図るとともに、
大切な事業を次世代へ円滑に引き継ぐための支援に
取り組みます。

市内総生産	名張市内の中小企業の景気指数（名張商工会議所調べ）
239,601（百万）円（令和7年度） ▶▶▶ 維持（令和12年度）	▲29.6%（令和7年度） ▶▶▶ ▲25.0%（令和12年度）

起業・新分野へのチャレンジ応援

名張で新しいビジネスや創業に挑戦したいと
いう想いに応えるため、相談体制を強化します。

名張ならではの地域資源を活かした、
魅力的な新商品の開発を支援します

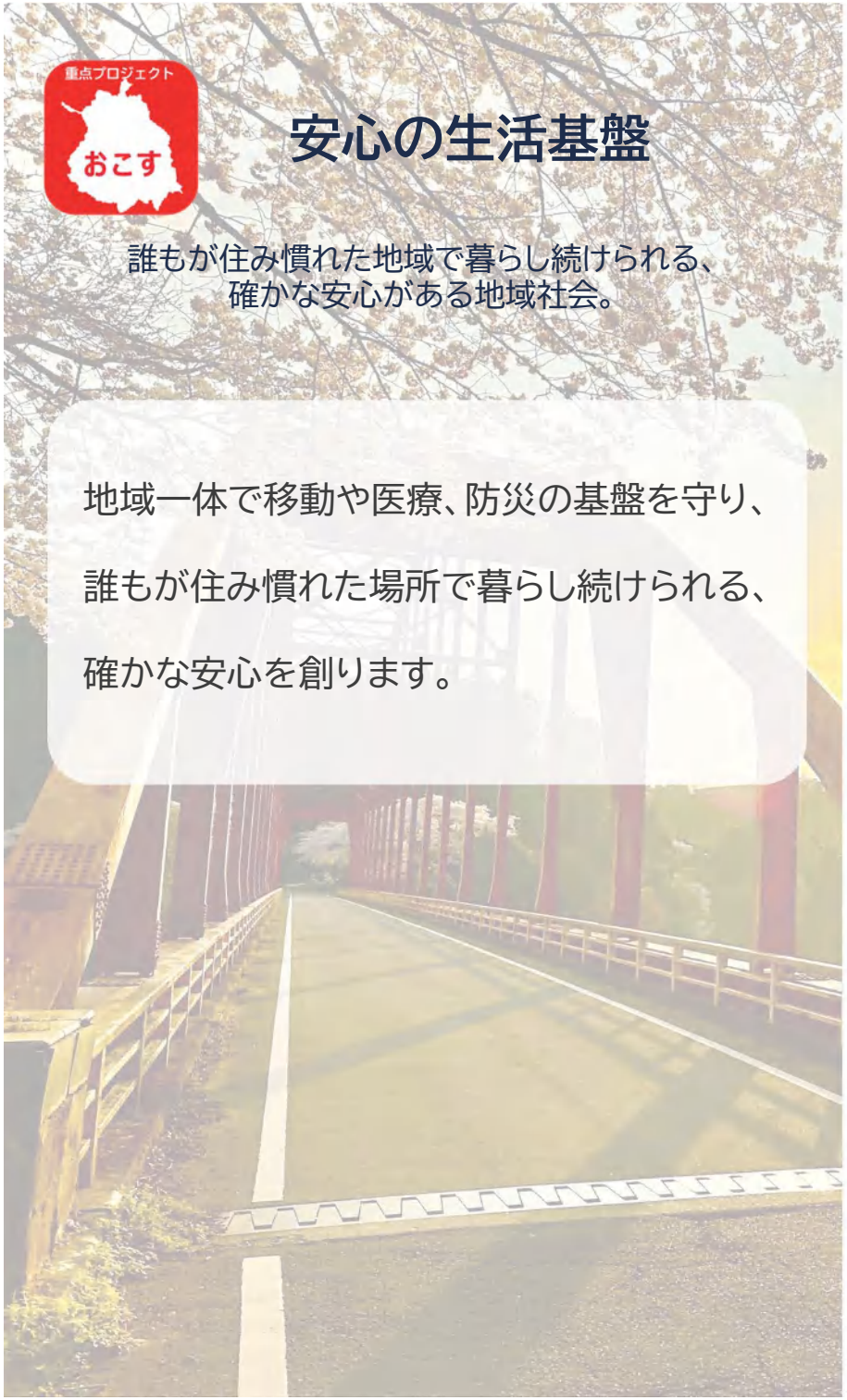
創業・事業承継の件数（累計）	ふるさと納税新規返礼品数（累計）
17件（令和7年度） ▶▶▶ 92件（令和12年度末/累計）	130件（令和7年度） ▶▶▶ 430件（令和12年度末/累計）

多様な働き方と雇用の場づくり

合同企業説明会などを通じて、市内企業と
就職を希望する方が出会う機会を創出します。

若者や女性をはじめ、誰もが自分らしく多様な
働き方を選択でき、活躍できる環境づくりを
進めます。

合同企業説明会等による企業と求職者の就職面談件数（累計）	ばりっ子すくすく応援企業認定企業数（令和12年度末）
362件（令和7年度） ▶▶▶ 2,112件（令和12年度/累計）	20件



重点プロジェクト
おこす

安心の生活基盤

誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられる、
確かな安心がある地域社会。

地域一体で移動や医療、防災の基盤を守り、
誰もが住み慣れた場所で暮らし続けられる、
確かな安心を創ります。

公共交通網と移動手段の確保

地域の実情に応じた持続可能な
公共交通ネットワークの最適化を図ります。

福祉、観光、産業など分野横断的な連携を強化し、
高齢者や子育て世代など、一人ひとりの移動を
社会全体で支える仕組みづくりを進めます。

公共交通など市内の交通環境に
満足している市民の割合

36.7%（令和7年度） ▶▶▶ 45%（令和12年度）

交通施策と他分野との連携事業数

6件（令和7年度） ▶▶▶ 11件（令和12年度）

暮らしを守る地域医療の確保とインフラ維持

関係機関との連携を強化し、誰もが安心して
医療を受けられる地域医療・救急体制の確保と、
その安定的な維持に努めます。

将来にわたりごみを安定して処理するため、
持続可能な一般廃棄物処理体制を構築します。

地域医療機関での医療体制に
満足している市民の割合

51.9%（令和7年度） ▶▶▶ 55%（令和12年度）

市民一人当たりのごみの排出量

676.5g（令和7年度） ▶▶▶ 659.5g（令和12年度）

安全・安心な暮らしのアップデート

総合防災訓練の実施などを通じて、
地域や住民が主体となって進める
防災活動を支援します。

空家の適正な管理を促すなど、市民が快適に
暮らせる良好な住環境の維持に努めます。

地震等の災害への備えをしている
市民の割合

51.9%（令和7年度） ▶▶▶ 55%（令和12年度）

管理不全空家の改善割合

39.2%（令和7年度） ▶▶▶ 43%（令和12年度）

重点プロジェクト
おこす

行財政改革

単なるコスト削減ではなく、
「暮らしを守り、未来を創る」という2つの柱で、
全ての世代が心豊かに暮らせるまちを実現する
土台づくりとしての行財政改革。

変化に対応し挑戦する行政へ。

行政運営と財政基盤を最適化し、

「暮らしを守り、未来を創る」施策を

下支えします。

財政構造の健全化

大規模災害などの不測の事態に備える市の貯金（財政調整基金）を確保し、市民サービスを安定的に維持するための財政基盤を構築します。

新規の借入を抑制するなど市債を計画的に管理し、返済の負担（実質公債費比率）を軽減することで、将来世代への過度な負担を残さない財政運営を進めます。

財政調整基金残高	実質公債費比率
10億円以上	14.9%（令和7年度） ▶▶▶ **13%以下**（令和12年度）

公民パートナーシップのアップデート

多様な主体との連携を時代に合わせて発展させ、新たな価値を共に創り出す公民連携を推進します。

市民の皆さんや企業等からの共感と応援をまちづくりにつなげ、パートナーシップの輪を広げます。

民間企業との包括連携協定による取組件数	企業版ふるさと納税等による受入額
12件（令和7年度） ▶▶▶ **20件/年**（令和12年度）	2,970万円（令和7年度） ▶▶▶ **2億円**（令和12年度末/累計）

持続可能な行政運営

デジタルツールによる行政事務の効率化や業務改善を進めるとともに、オンライン申請等の活用により、市民の利便性を高めます。

社会の変化に対応し、市民の視点に立った行政サービスの見直しや改善を進め、サービスの利便性と満足度の向上を図ります。

国が優先する48手続のうちオンラインで申請できる行政手続の数	行政サービスの質や利便性について満足していると感じる市民の割合
24手続（令和7年度） ▶▶▶ **48手続**（令和12年度）	62.2%（令和7年度） ▶▶▶ **65%**（令和12年度）

第4章　持続可能な暮らしを守り、未来を創る23の基本施策



安心して暮らせる毎日と、
未来への取組はどうつながるの？

「暮らしを守る」4つの行動と、「未来を創る」3つの行動、
合わせて7つの行動で、23の基本施策を進めます。
毎日の安心と、次の世代につながる未来をつくります。



地域福祉の推進と地域共生社会の実現

ささえる

目指す姿

誰もが住み慣れた地域で、困りごとを抱えても社会から取り残されず、必要な支援に適切につながる安心感のある社会

現状と課題

本市では、住民主体の生活支援サービスや、身近な相談窓口である「まちの保健室」の活動が定着し、地域で支え合う仕組みが育っています。一方で、これらの活動は高齢層の担い手に依存しており、次世代への継承が課題です。また、人口構造の変化に伴い、個人の抱える悩みは「ひきこもり」や「8050問題」のように複雑化・複合化し、これまでの制度の枠組みだけでは支援が届きにくいケースも少なくありません。

誰もが社会から取り残されることなく、必要な支援につながるためには、これまでの活動を次世代へつなぐと共に、多様な関係機関が連携し、複雑化した課題に対応できる包括的な支援体制を強化していく必要があります。

変えないこと（続けること）

- 有償ボランティアなど、地域住民による支え合い活動やネットワークづくりを引き続き支援します。
- 「まちの保健室」を核とした身近な相談体制を維持するとともに、多様な機関が連携する包括的な支援体制を推進します。
- 住民一人ひとりの状況に応じたアウトリーチ（訪問による相談支援）を実践し、課題の早期発見と支援につなげます。
- 福祉・介護・子育て・生活支援など、分野の垣根を越えて連携し、チームで一人ひとりの複合的な課題に対応する「重層的支援体制」の構築を継続して進めます。

変えること（始めること、進化させること）

- 地域活動の新たな担い手を確保・育成するための仕組みづくりを進めます。
- 相談実績や地域のデータを分析し、それぞれの地域特性に応じた予防的な取組を推進します。
- 民間事業者との連携をさらに強化し、介護予防だけでなく、社会参加や外出の機会創出など、市民のQOL（生活の質）を高める取組へ発展させます。
- 生活に困窮する兆候などを早期に把握し、必要な支援へ迅速につなぐため、関係機関との情報連携やアウトリーチ型（訪問による相談支援）の支援を強化します。
- 支援が必要であるにも関わらず情報が届きにくい方々へ向けて、周知方法を工夫するとともに、早期に相談できる仕組みづくりを強化します。
- 地域の実情に応じた多様な移動手段の確保を目指すため、交通担当部署や民間事業者と連携します。

成果を測るものさし

困ったときに身近に相談できる人がいる市民の割合

81.1%（令和7年度）▶▶▶ 85%（令和12年度）

保健・健康づくりと地域医療の確保

ささえる

目指す姿

市民一人ひとりが自分らしく健康維持に取り組み、地域の基幹病院や診療所等が連携・役割分担をすることにより、住み慣れた地域で必要な医療を受けられ、心身ともに健やかに暮らせる環境

現状と課題

市民意識調査では、健康な暮らしを送っていると感じている市民は8割を超える高い水準にありますが、地域医療体制への満足度は5割程度にとどまっており、市内で必要な医療を完結できないことへの不安が大きくなっています。市内の医療機関や医療従事者が限られる中、将来にわたって必要な医療を提供できる体制を確保するためには、医療従事者の確保・定着を図るとともに、関係機関や近隣地域との連携を強化する必要があります。

今後、高齢化の進展に伴い、健康寿命の延伸と地域医療体制の維持は、ますます重要になります。市民一人ひとりが自分らしく健康づくりに取り組める環境を整えるとともに、広域的な連携や医療資源の有効活用により、持続可能な地域医療体制を確保することが不可欠です。

変えないこと（続けること）

- 地域づくり組織や「まちじゅう元気!!リーダー」と連携した、住民主体の健康づくり活動を支援します。
- 通いの場などの高齢者の居場所づくりを進めます。
- 伊賀地域全体で夜間や休日の二次救急医療を支え合う輪番体制を維持するとともに、地域医療の要である市立病院の経営健全化と市民に信頼される病院体制整備を支援します。
- 伊賀市と連携し、安心して子どもを産み育てられる周産期医療体制の確保に取り組みます。

変えること（始めること、進化させること）

- 若者・働く世代を対象とした生活習慣病予防など、あらゆる世代が健康づくりに取り組みやすい環境を整えます。
- スマートウェルネスシティ（健幸を地域全体で支える取組）の考え方に基づき、市民が日常生活の中で自然に健康づくりに取り組める環境を整えます。
- 広域的な連携強化、機能分担や医療資源の有効活用等による安定した地域医療体制を整備します。
- 近隣市町村と連携し、地域全体で医師や看護師などの医療従事者を確保・育成する仕組みづくりを進めます。

成果を測るものさし

健康な暮らしを送っている市民の割合

83.3%（令和7年度） ▶▶▶ 85%（令和12年度）

過去1年間に歯科検診を受診した市民の割合

66.3%（令和7年度） ▶▶▶ 70%（令和12年度）

地域医療機関での医療体制に満足している市民の割合

51.9%（令和7年度） ▶▶▶ 55%（令和12年度）

高齢者福祉と介護予防の推進

ささえる

目指す姿

高齢者が必要なケアを十分に受けられるとともに、自身の役割ややりがいを持って「地域の支え手」としても活躍できる地域社会

現状と課題

市民意識調査では、日常生活の中で生きがいを感じている高齢者の割合は82.7%と高く、特に75歳以上の後期高齢者では84.9%に達しています。一方で、17.3%の高齢者が生きがいを感じていないという結果は、健康上の問題や社会的な孤立と言った課題を抱えている可能性があります。

今後、高齢化の急速な進展に伴い、中・重度の要介護者の増加が見込まれる中、在宅での医療を必要とする高齢者への対応や、高齢者のみで構成される世帯への支援をさらに充実していく必要があります。さらに、高齢者自身が「地域の支え手」として、生きがいを持って活躍できる環境づくりがますます重要になります。

変えないこと（続けること）

- 介護保険制度や高齢者福祉サービスにより、高齢者の生活を支援します。
- まちの保健室が身近な相談窓口として、支援が必要な高齢者の様々な相談に対応します。
- 介護予防教室の開催、サロン活動等の支援を行うことで、高齢者の健康づくりや社会参加を促進します。
- 健康づくり・介護予防の担い手となる「まちじゅう元気!!リーダー」の育成と活動を支援します。
- 高齢者が気軽に集える地域の「通いの場」の提供をします。

変えること（始めること、進化させること）

- 住み慣れた自宅での暮らしを望む方が安心して生活できるよう、ニーズに合わせた福祉サービスの見直しを進めます。
- 認知症になっても本人の意思が尊重され、安心して暮らし続けられる社会を目指し、社会参加の機会確保や相談体制の整備を進めます。
- 配食サービスの提供とあわせて安否確認を行うなど、見守り体制を強化します。
- 民間事業者とも連携し、高齢者が「参加したい」と思えるような魅力ある介護予防事業を企画します。
- 身体機能の維持向上だけでなく、社会参加や外出機会の創出、人とのつながりづくりを重視した新しい形の介護予防を推進します。

成果を測るものさし

日常生活の中で生きがいを感じている高齢者の割合

82.7%（令和7年度）▶▶▶ **85%**（令和12年度）

市の保健・医療・福祉に関する情報提供や相談支援に満足している高齢者の割合

64.1%（令和7年度）▶▶▶ **70%**（令和12年度）

障害者福祉と自立支援の推進

ささえる

目指す姿

障害のある人が適切なサポートにつながり、互いに理解し合いながら、その人らしく安心して暮らすことができる共生社会

現状と課題

市民意識調査では、障害のある人への差別や偏見が改善傾向にあるなど、共生社会への理解が進みつつあります。しかし、その理解はまだ十分とは言えず、社会全体に向けた継続的な意識の醸成が課題です。

また、近年では「8050問題」のように、世帯が抱える課題が複雑化、複合化しています。こうした状況に対応するため、従来の障害福祉の枠組みにとどまらず、多様な支援機関が連携する「包括的な支援体制」の強化が急務となっています。

変えないこと（続けること）

- 高齢・障害・児童・困窮・保健・教育等、庁内の各部署、まちの保健室や民生委員・児童委員等の関係機関と連携した分野の垣根を越えた相談・支援体制を維持します。
- 障害者虐待の防止と、権利を守るための相談支援機能を充実させます。
- 地域の障害福祉サービス事業所との連携を密にし、支援が必要な方にサービスが行き届くよう努めます。
- 障害や障害のある方への理解を社会全体で深めるための啓発活動を継続します。

変えること（始めること、進化させること）

- 支援が必要であるにも関わらず、自ら声を上げることが難しい方へも確実に支援を届けられるよう、情報発信や相談支援のあり方を強化します。
- 貧困や社会的孤立といった制度の狭間にある複合的な課題に対し、分野の垣根を越えて一つの窓口で対応できる支援体制の構築を進めます。
- 障害の有無によって分け隔てられることなく、誰もが互いに人格と個性を尊重し支え合う「共生社会」の実現に向け、市民一人ひとりの理解を深めるための啓発を強化します。

成果を測るものさし

今から5年前と比べて障害のある人に対する差別や偏見は改善されたと思う市民の割合

68.2%（令和7年度）▶▶▶ **70%**（令和12年度）

一般就労につながった障害者の数【延べ人数】

47人（令和7年度）▶▶▶ **100人**（令和12年度）

防　災　・　減　災　と　消防・救急体制の強化

すすめる　まもる

目指す姿

「誰一人取り残さない」視点に立ち、市民・地域・行政がそれぞれの役割を果たし、迅速かつ適切な救命・消火・防災体制が維持されている状態

現状と課題

市民意識調査では、消防・救急活動に約8割の市民が安心を感じており、また、災害への備えをしている市民の割合が半数を超えるなど、市民の防災意識も向上してきていることが伺えます。

しかし、近年の大規模化・激甚化する災害の教訓を踏まえると、現在の備えだけでは十分とは言えず、行政・地域・消防団が一体となった、より実効性のある災害対応体制を構築していく必要があります。

加えて、高齢化に伴う救急需要の増加、消防団員の不足、施設の老朽化といった構造的な課題も深刻化しており、将来にわたり安定した消防・救急体制を維持していくことが急務となっています。

変えないこと（続けること）

- 住民参加型の総合防災訓練を実施し、地域主体の防災活動を支援します。
- 防災啓発を推進し、市民の防災意識の向上に努めます。
- 福祉避難所や、地域と連携した避難行動要支援者への支援体制を構築します。
- 災害備蓄品や防災資機材を計画的に整備します。
- 消防車両・資機材の計画的な更新整備を行います。
- 伊賀市との消防連携・協力協定に基づく相互応援体制の更なる充実を図ります。
- 住宅の耐震化の促進等による災害に強い安全な居住環境づくりを推進します。
- 上下水道管路等公共インフラやため池の計画的な耐震整備を行います。

変えること（始めること、進化させること）

- 防災人材の育成、受援体制の確保、避難生活環境の抜本的な改善など、事前防災の取組を強化し、災害への備えと対応力を高めます。
- 災害発生時に各地域が主体となって避難所を円滑に開設・運営できる体制を確立するとともに、民間事業者との連携による避難所運営支援の仕組みづくりを進めます。
- 行政・地域・消防団がそれぞれの役割を明確にし、互いに連携する「三位一体」の災害対応モデルの定着を図ります。
- 「消防組織再編計画」を策定し、人口減少社会に適応した持続可能な消防体制への転換を目指します。
- 消防団員の確保に向け「支援団員制度」の導入を推進します。あわせて、消防団施設の集約化を進め、持続可能な体制作りを構築します。

成果を測るものさし

地震等の災害への備えをしている市民の割合

51.9%（令和7年度）　▶▶▶　**55%**（令和12年度）

消防・救急活動に安心を感じている市民の割合

77.6%（令和7年度）　▶▶▶　**81%**（令和12年度）

防犯・交通安全と生活安全の強化

まもる

目指す姿

地域全体での見守りや防犯・交通安全対策が機能し、市民が犯罪や交通事故への不安を感じることなく安全に暮らせる状態

現状と課題

地域や関係団体との連携による見守り活動や防犯・交通安全対策が進められており、犯罪への不安を感じる市民の割合は過去と比較して改善傾向にあります。

しかし、手口が巧妙化する特殊詐欺や、インターネットを悪用した犯罪など、手口の巧妙化・多様化が進む新たな脅威への対応が急務です。デジタル社会の進展に伴う消費者被害、また、交通事故の防止や、近年増加しているクマなどの野生動物への対策など、市民の安全な暮らしを守るためには、継続的な取組と新たな視点での対策強化が不可欠です。

変えないこと（続けること）

- 名張市生活安全協議会（防犯部会・交通安全部会）の取組を継続します。
- 地域住民が主体となった防犯・交通安全活動を支援します。
- 地域包括支援センター等と連携し、高齢者等への消費者被害防止のための情報提供を行います。
- 名張市消費生活者被害防止ネットワーク・プロジェクト参画団体への情報提供を行います。
- 各種団体への出前講座、消費者ホットライン「188」の周知・啓発を行います。
- 春、夏、秋、年末の交通安全運動における街頭啓発やイベントを実施します。
- 名張市通学路交通安全プログラムに基づく合同点検を実施します。

変えること（始めること、進化させること）

- 民間団体や地域づくり組織などとも連携し、地域全体で隙間なく見守り合う防犯網の構築を目指します。
- SNSなどを活用し、巧妙化する特殊詐欺や悪質商法などの手口や対策に関する情報を、世代別の特性に合わせ、効果的に届けます。
- 高齢ドライバーの事故防止に加え、運転免許を返納した後の移動手段の確保について、関係部署と連携して検討を進めます。
- ツキノワグマによる被害を未然に防ぐため、三重県や隣接自治体などと緊密に連携し、情報共有や緊急時の対応体制の構築を進めます。

成果を測るものさし

犯罪に対して不安感を持っている市民の割合

45.9%（令和7年度）▶▶▶ **40%**（令和12年度）

快適な住環境の維持と空き家対策

目指す姿

空き家の適正管理や利活用が進み、景観と調和した魅力的な住まいが並ぶ、安全で安心な居住エリア。

現状と課題

市民意識調査では、6割が現在の住環境に満足している一方、人口減少や高齢化に伴い、市内の空き家は増加傾向にあります。適切に管理されていない空き家は、倒壊の危険や景観の悪化など、周辺の住環境に悪影響を及ぼします。

加えて、災害への備えという観点からの住宅の安全性向上や、高齢者や障害者が安心して暮らせる環境整備も求められています。また、子育て世帯の移住定住を促進するためには、ニーズに応じて活用できる住宅取得のための補助制度を講じる必要があります。 これらの課題に対応するため、空き家対策と連携した住環境の対策が不可欠となっています。

変えないこと（続けること）

ととのえる

- 空き家の所有者からの相談に応じるとともに、適切な管理をお願いする啓発活動を継続します。
- 空き家相談窓口の運営及び関係部署・関係機関との連携を図ります。
- 空き家バンク登録物件の積極的な情報提供を通じて、空き家の流通・利活用の推進に努めます。
- 旧耐震基準の木造住宅に対し、耐震化の必要性の啓発と補助を行います。

変えること（始めること、進化させること）

- 空き家について、現地調査やデータ管理を強化し、実態の把握と迅速な対応に努めます。
- 庁内連携に加えて、専門家団体、不動産事業者、地域団体といった関係者との連携体制を強化し、空き家の発生予防から流通促進、適正管理までを一体的に進めます。
- 住宅の売却や住み替えを検討する段階からのアプローチを行うことで、中古住宅の流通を促進させ、空き家の発生を抑制します。
- 移住・定住施策と連携し、居住誘導区域内の空き家への支援を行い、コンパクトシティの形成を推進します。
- 中古住宅流通促進のため、新たな補助制度を開始します。
- 福祉部局と連携し、住まいに困っている住宅確保要配慮者をセーフティネット住宅や市営住宅へ円滑につなぐ取組を強化することで、安定した住まいの確保を進めます。

成果を測るものさし

現在の住環境について、生涯、安心して快適に暮らすことができると思う市民の割合

60.0%（令和7年度） ▶▶▶ **65%**（令和12年度）

空き家バンク登録物件における1年間の成約数

20件/年間（令和7年度） ▶▶▶ **25件**/年間（令和12年度）

道路等の整備・維持管理

ととのえる

目指す姿

舗装の傷みや危険箇所が適切に整備・補修され、誰もが安全・安心に通行できる道路ネットワーク

現状と課題

市民生活や経済活動を支える道路網について、市民意識調査では道路環境への満足度が約半数にとどまっており、歩道を含めた生活道路の整備や舗装の修繕など、きめ細かな対応が求められています。

また、高度経済成長期に整備された橋梁をはじめとする道路施設の多くが老朽化しており、計画的な点検と予防的な修繕により施設を長持ちさせる長寿命化が喫緊の課題となっています。

道路の整備や維持管理には多額の費用が必要となることから、限られた財源の中で、通学路の安全確保や渋滞緩和など、市民のニーズが高い箇所の整備を優先すると同時に、より計画的・効率的な維持管理へ転換していく必要があります。

変えないこと（続けること）

- 災害の発生予防、拡大防止のために、計画的な舗装修繕を行い、車両が安全かつ快適に通行できる路面状態の確保と交通事故の防止に取り組みます。
- 橋梁の法定点検を適正に実施し、予防保全型の維持管理に基づく補修工事を実施します。
- 関係行政機関等や関係住民との合意に基づき、通学児童の安全で快適な通行を確保するための通学路整備を引き続き行い、歩道が未整備である区間の整備を目指します。
- 地域と連携して、道路等の簡易修繕や除草作業を進めます。
- 国県道事業の促進につながる各種同盟会及び協議会による要望活動を実施します。

変えること（始めること、進化させること）

- 地域からの要望に加え、通学路の安全性や交通量なども踏まえた、整備箇所の優先度を明確化します。
- 将来的な維持管理費の抑制を目指し、耐久性やメンテナンス方法も踏まえ、長期的な視点から最適な工法の選定を行います。

成果を測るものさし

市内の道路整備が進み、移動しやすくなったと感じている市民の割合

53.5%（令和7年度）　▶▶▶　55%（令和12年度）

上下水道の安定運営

ささえる　ととのえる

目指す姿

上下水道について老朽化対策が計画的に進められ、安全で安心して使える生活用水が安定して供給され、衛生的で快適な生活環境が将来にわたり守られるとともに、災害リスクに備えた強靭な供給体制が整っている状態

現状と課題

上下水道は、衛生的で快適な市民生活を支える不可欠なライフラインであり、市民意識調査では8割を超える市民がサービスに満足しているなど、安定した供給が評価されています。

しかし、人口減少に伴う給水収益の減少、施設の老朽化に伴う更新需要の増大、物価高騰に伴う維持管理経費の増嵩に加えて、大規模な自然災害に備えた計画的な施設の耐震化などの課題があります。将来にわたって安全・安心なサービスを供給し続けるための強靭な体制構築が急務となっています。

変えないこと（続けること）

- 安全・安心な水道水の安定供給を継続します。
- 耐震化を含めた管路更新を継続します。
- コスト管理と安定稼働の両立を図ります。
- 名張市下水道マスタープランに基づき、公共下水道の整備を行います。
- 下水道を計画的に管理するストックマネジメント計画等に基づき、施設の適切な更新・改築を行います。

変えること（始めること、進化させること）

- DX技術の導入による効率的な事業実施を進めます。
- 民間事業者のノウハウ活用や、近隣自治体との連携といった手法を検討し、将来にわたって安定的かつ効率的なサービスを提供できる体制の検討を行います。
- 将来の人口減少を見据え、「ポジティブシュリンク」の考え方に基づくダウンサイジングを進めます。
- 施設の耐震化と老朽化対策を計画的に進め、災害時にも機能するライフラインの確保に努めます。

成果を測るものさし

上水道サービスに満足している市民の割合

80.4%（令和7年度）▶▶▶ **81.5%**（令和12年度）

生活排水を適切に処理する環境が整えられていると思う市民の割合

81.5%（令和7年度）▶▶▶ **82.5%**（令和12年度）

生涯スポーツと憩いの空間づくり

目指す姿

身近なスポーツ環境が持続可能な形で維持され、市民がそれぞれのペースで日常的にスポーツに親しんでいる状態。
また、身近な公園が地域と協働して適切に手入れされ、子どもから高齢者までが快適に憩える空間として維持されている状態

現状と課題

本市には多様なスポーツ施設があり、市民が水辺や緑に親しめる環境も整備されています。市民意識調査では、こうした身近な自然環境に対し約8割の市民が満足しているなど、憩いの空間づくりは一定の評価を得ています。

体育施設の利用実績は増加しているものの、週に1回以上スポーツに親しむ市民の割合は伸び悩んでおり、特に働く・子育て世代の割合が低いことが課題となっています。また、公園は市民の身近な憩いの場となっていますが、施設の老朽化に加え、管理の担い手不足といった課題も生じています。市民がスポーツや憩いの活動に引き続き親しめるよう、施設の持続可能な維持管理体制の構築や、ニーズに応じた利用環境の整備が求められています。

変えないこと（続けること）

ととのえる

- スポーツ関連団体等と連携し、市民ニーズに応じたスポーツイベントや教室の開催を実施するとともに、効果的・効率的に事業を推進します。
- 指定管理者制度を活用し、スポーツ施設の安定的な維持管理に努めます。
- 利用者の安全確保と施設の長寿命化を踏まえた計画的な維持管理を行います。
- 地域づくり組織等と連携して公園の日常的な管理を行います。
- 公園施設の長寿命化対策事業を継続して実施します。

変えること（始めること、進化させること）

- 誰もが楽しみながら身体を動かす体験型イベントの開催や多様なスポーツに親しむ機会を創出します。
- 中学校運動部活動の持続可能な体制構築のため、指導者の確保など活動体制の構築に向けた検討を進めます。
- 緊急性や優先度を的確に見極めた計画的な設備等の更新や修繕を行います。
- 利用状況や市民ニーズ、近隣自治体との連携といった多角的な視点からスポーツ施設のあり方を検討します。
- 公園の維持管理費用の削減と満足度向上の両立を目指します。
- 高齢化や少子化に対応した公園機能の見直しを目指します。

成果を測るものさし

週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合

36.4%（令和7年度）▶▶▶ 48%（令和12年度）

水辺や緑とのふれあいに満足している市民の割合

78.8%（令和7年度）▶▶▶ 80%（令和12年度）

生活環境の保全と衛生維持

まもる

目指す姿

住環境が適切に保たれ、市民が日常の中で「快適で美しいまち」を実感できており、地域コミュニティ等が主体となり、良好な居住環境を互いに守り育てる文化が定着している状態

現状と課題

市民の環境美化に対する意識は高く、地域が主体となった活動に支えられています。

その一方で、近年は新たな課題も生じています。太陽光発電設備の設置が拡大する中で、景観との調和や防災面での懸念が寄せられているほか、管理不全のあき地に関する市民からの相談も増加傾向にあります。

また、不法投棄についても、監視活動を継続するとともに、不法投棄を許さないという地域全体の意識をさらに高めていく必要があります。美しいまちであり続けるためには、市民や地域との連携を一層強化し、環境美化活動を推進していくことが不可欠です。

変えないこと（続けること）

- 不法投棄等に対する監視パトロールを実施し、地域の美化を保ちます。
- 市内一斉のクリーン大作戦などを開催し、市民が一体となって環境美化活動に取り組む機会を創出します。
- 市管理職員、企業、地域による環境美化行動を実施します。
- 太陽光発電設備について県ガイドラインや本市の条例に基づいた適切な指導を行います。
- あき地の所有者へ、繁茂した雑草等の除去などの適正管理についての啓発や指導を行います。

変えること（始めること、進化させること）

- これまでの活動を一歩進め、市民や地域が主体となって美しいまちを維持していく活動がさらに広がるよう、その仕組みづくりを支援します。
- 不法投棄やポイ捨ての未然防止のための環境美化意識の醸成に取り組みます。
- 太陽光発電設備などが地域の景観や防災の観点から問題を生じさせることのないよう、自然環境と調和した形での導入を促すための方策を検討します。
- 深刻化するあき地問題に対し、現地調査の効率化や所有者への効果的な働きかけ、さらには所有者不明土地への対策も含め、発生予防から適正管理までの一貫した仕組みを整えます。

成果を測るものさし

自分が住む地域におけるまち並みなど景観や環境が良好であると感じる市民の割合

74.4%（令和7年度）▶▶▶ **76%**（令和12年度）

市民による清掃活動や自然保護活動により、名張市の環境が良くなっていると感じる市民の割合

66.5%（令和7年度）▶▶▶ **70%**（令和12年度）

子ども・子育て支援の推進

はぐくむ

目指す姿

安心して妊娠・出産・子育てができるよう、地域、企業、行政が連携して子どもの育ちと家庭を切れ目なく支える社会

現状と課題

市内から分娩取扱施設がなくなった影響などにより、妊娠期の支援や産後ケアに対する市民の満足度が低下しており、安心して子どもを産み育てられる環境の再構築が急務となっています。

また、児童虐待に関する相談・通告件数は増加傾向にあり、不登校やひきこもりといった表面化しにくい問題も深刻化していることから、困難を抱える子どもや家庭への支援体制の強化が求められています。

さらに、保育ニーズへの対応は進んでいるものの、今後は少子化の進行を見据え、施設の最適化を進めるとともに、多様なニーズに応える保育の質の向上が大きな課題となっています。

変えないこと（続けること）

- これまで推進してきた「名張版ネウボラ」の取組をさらに進め、妊娠前から子育て期までのあらゆる段階で、一人ひとりに寄り添える支援体制を構築します。
- 名張あんしん出産・子育て応援事業を継続します。
- 児童虐待防止対策の強化と要保護児童の早期発見・適切な保護に努めます。
- 地域、企業、家庭、学校等と連携した児童虐待への取組や子ども、家庭の支援を行います。
- 多様な保育施設（保育所、認定こども園、地域型保育）による安定した保育サービスの提供を行います。
- 多様なニーズに応じた子育て支援サービスの充実に努めます。

変えること（始めること、進化させること）

- 「会社じゅう元気!!プロジェクト」によるプレコンセプションケアを推進します。
- 働く世代への子育て支援の周知と企業の子育て支援意識の向上を図ります。
- 学校や家庭だけでなく、子ども・若者が安心して自分らしく過ごせる「第三の居場所」の運営により、子ども・若者の受け皿を強化します。
- 意見表明機会の創出と政策決定への参加促進により、子ども・若者の社会参画を進めます。
- 保育所入所等における電子申請の導入や保育ICTシステムの活用を進め、保護者負担の軽減を図ります。
- 医療的ケア、発達支援、アレルギー等の多様なニーズに対応するための保育サービスの充実を目指します。
- 児童数減少や施設老朽化に伴う施設統合や長寿命化改修も含めた保育環境の質の向上を検討します。

成果を測るものさし

妊娠期の支援や産後ケア等の妊産婦・乳幼児への支援に満足している市民の割合

38.3%（令和7年度）▶▶▶ **67.2%**（令和12年度）

保育施設や子育てサービス、相談窓口等の子育て支援施策に満足している市民の割合

60.1%（令和7年度）▶▶▶ **69%**（令和12年度）

学　校　教　育　の　充　実

はぐくむ

目指す姿

子どもたちが夢や目標を持ち、それぞれの個性やペースに合わせて主体的に学べる環境。不登校や困り感を抱える子どもへの支援が充実している状態。

現状と課題

未来を担う子どもたちの幸せ（ウェルビーイング）につながる自己肯定感の向上は、学校教育における重要なテーマです。しかし、不登校児童・生徒数は高止まり傾向にあり、子どもたちが抱える困難さに寄り添い、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援体制の強化が急務となっています。

教育環境の面では、施設の老朽化も喫緊の課題であり、子どもたちが安心して学べる環境を確保するため、学校・家庭・地域、さらには福祉等の関係機関が一体となり、誰一人取り残さない教育環境を構築していく必要があります。

変えないこと（続けること）

- 子どもたちにこれからの時代を生きていくための基礎・基本となる力を育成します。
- 豊かな情操、道徳心、人権尊重、平和希求の態度や行動力を育成します。
- 子ども一人ひとりが自分らしく学ぶことができるよう、学校と関係機関との連携を強化して取組を推進します。
- 義務教育の9年間を見通した学びの連続性を確保します
- 地域とのつながりを生かした特色ある教育活動を推進します。
- 教職員が子どもに寄り添い、向き合う時間や研修の機会を確保できる環境づくりを進めます。

変えること（始めること、進化させること）

- 子どもたちが自ら問いを立て、対話しながら答えを探求していく「主体的・対話的で深い学び」を推進し、思考力や表現力を育むとともに、多様な他者と関わる中で自分の良さや可能性に気づくことができる機会を創出します。
- ICTを効果的に活用し、子ども一人ひとりの興味関心に応じて学びを深め、「わかった」「できた」を実感することで、学習への意欲と自己肯定感を高めます。
- 特別な支援を必要とする子ども、不登校の子ども、外国につながる子どもなど、個別の状況に応じた支援を充実します。
- 不登校への未然防止に努めるとともに教育支援センター（さくら教室）の機能強化を図ります。
- 屋内運動場の長寿命化改修と空調設備整備を行います。
- 学校給食センターの整備（令和11年9月開始予定）を着実に進め、センターを食育の拠点と位置づけ、地場産物の活用を拡充するなど、子どもたちの健やかな成長を支える運営を行います。
- 「名張市未来のよりよい学校の在り方検討審議会」を設置し、児童生徒数減少を見据え、学びの充実に向けた望ましい教育環境について検討するとともに基本計画を策定します。
- 少子化に対応した持続可能な部活動運営と、地域クラブ活動の段階的な拡大を推進します。

成果を測るものさし

市内の小・中学校の施設・設備や教育内容等の教育環境に満足している市民の割合

63.1%（令和7年度）▶▶▶ 68%（令和12年度）

「自分にはよいところがある」と思う児童・生徒の割合（全国学力・学習状況調査）

（小学校）83.8%
（中学校）85.9%
（令和7年度）▶▶▶ （小・中学校）87%（令和12年度）

青少年育成・生涯学習の推進

はぐくむ　つくる

目指す姿

誰もが生涯を通じて学び続けることができる環境と、地域全体で青少年の健やかな育ちを支える環境が整っている状態。

現状と課題

人口減少や生活様式の変化の中でも、市民が自己実現できるよう、生涯を通じた学習機会の充実が重要です。

一方、青少年が不審者やSNSを介したトラブルと言った様々なリスクから身を守り、健やかに成長するためには、学校や家庭だけではなく、地域全体で見守り支える環境づくりが不可欠です。地域住民参画のもと、放課後子ども教室や地域内の見守り等を通じ、子どもたちが地域の中で心豊かに育まれる環境づくりを進めています。

市民一人ひとりの「学びたい」という思いを、地域活動やまちづくりへとつなげていく「生涯学習ネットワーク」の構築を進め、誰もが学び続け、その知識や経験を地域に活かすことで、個人の生きがいと地域全体の活力を共に創出することを目指します。

変えないこと（続けること）

- 地域学校協働活動推進員の設置と、学校を核とした生涯学習ネットワークを構築します。
- 図書館が地域の「読書」と「学び」の交流拠点として果たしてきた役割を確実に維持します。
- 図書館を安心して快適に利用できるよう、計画的に施設の修繕や更新を進めます。
- 地域住民参画のもと、子どもたちが地域の中で心豊かに育まれる環境づくりを進めます。
- 次代を担う人材が、地域や社会を支える担い手として活躍できるよう、学びや活動の機会の充実に取り組みます。

変えること（始めること、進化させること）

- 放課後子ども教室のすべての地域での実施に向けた協議を継続します。
- 放課後子ども教室の校内交流型の拡充に向けた研究を行います。
- 放課後子ども教室実施地域の支援者間での情報交換・相談の場づくりを提供します。
- 図書館が、福祉や健康といった暮らしの課題にも寄り添う地域のハブ（中核拠点）へと進化することを目指します。
- より多くの方が本と出会うきっかけをつくるため、図書館外での活動に積極的に取り組みます。

成果を測るものさし

目的を持って生涯学習に取り組んでいる市民の割合

43.8%（令和7年度）▶▶▶ **50%**（令和12年度）

放課後子ども教室設置数

12か所（令和7年度）▶▶▶ **15か所**（令和12年度）

図書館による学校・地域等への出張・訪問活動の実施回数

16回（令和7年度）▶▶▶ **25回**（令和12年度）

地　域　協　働　・　持続可能な住民自治

つなぐ

目指す姿

地域ビジョンが着実に実行され、住民が主体となって地域の実情に応じた課題解決ができる持続可能な住民自治体制

現状と課題

名張市は全国に先駆けて「地域づくり組織」を立ち上げ、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という理念のもと、市民主体のまちづくりを推進してきました。しかし現在、地域活動への参加率は低下傾向にあり、目標値との乖離が拡大しています。

「自分たちのまちは自分たちでつくる」という先進的な理念が、今、担い手不足という大きな壁に直面しています。この危機を乗り越え、活動の芽を育て、次の世代へとバトンをつなぐため、地域活動のあり方を見直す時期に来ています。

こうした局面において、「地域内分権」の理念を堅持しながら、若者などの参画を生み出す仕組みの実装、事業整理と支援体制の見直し、市民センターの機能強化、地域事務局体制の標準化などによる事務局の負担軽減が求められています。

変えないこと（続けること）

- 住民自らが考え、自ら行う「地域内分権」の理念を堅持します。
- 防犯・防災、環境維持、高齢者支援、地域交流など、地域の実情に応じた基幹事業を着実に継続するための支援を行います。
- 市民センターを拠点とした地域づくり活動の支援を推進します。

変えること（始めること、進化させること）

- 地域活動の「継続性」を高めるため、事業見直しの支援に取り組みます。
- これまで活動の中心を担ってきた世代に加え、若者や子育て世代が気軽に関われるよう、時代に合った多様な参加の形を地域と共に創り出し、活動の輪を広げていきます。
- 市民センターを「地域運営の拠点」として機能強化し、地域が主体的にまちづくりを進められる環境を整えます。
- 地域活動を持続的に支える運営体制の充実を進めます。
- ゆめづくり地域交付金を、時代や地域の実情に合ったものへ見直し、安定して地域活動を継続できるようにします。

成果を測るものさし

地域ビジョンに掲げられている各種事業や地域づくり組織・区・自治会などの活動に参加したことがある市民の割合

48%（令和7年度）▶▶▶ **60%**（令和12年度）

隣近所や地域の人との交流があると感じている市民の割合

58.7%（令和7年度）▶▶▶ **70%**（令和12年度）

高校生や大学生など若者と連携した取組をしている地域づくり組織数

6地域（令和7年度）▶▶▶ **10地域**（令和12年度）

商工業の振興と雇用創出

はぐくむ　つくる

目指す姿

多様な働く場が創出され、地元企業と市民が共に活力を持ち、起業や新たな事業展開に挑戦する市民が支えられている状態

現状と課題

本市は県内8位の事業所集積を持つ産業基盤を有していますが、人口減少や生産年齢人口の減少を背景に、市内企業の担い手不足や事業承継が深刻な課題となっています。

こうした中、市民意識調査では働く場の確保に満足している市民は4割に満たず、市内企業が抱える人材不足と、若者を中心とする市民が望む働く場との間に生じている「雇用のミスマッチ」は、地域経済の活性化において解消すべき重要な課題です。

将来にわたり地域経済と雇用を支え、若者や多様な人材に選ばれるまちであり続けるためには、市内企業の魅力を高め、伴走型支援を強化するとともに、新たな企業誘致や創業支援を推進し、多様な働き方と雇用の場を創出していくことが不可欠です。

変えないこと（続けること）

- 商工団体、金融機関、行政等の関係機関が連携し、創業、経営改善、販路開拓、事業承継、新規事業展開など、事業者の課題や状況に応じた支援を行います。
- ふるさと納税を通じて、観光資源や地元産品の魅力を市内外へ発信し、地域産品の販売や地域経済の活性化につなげます。
- 企業の市内立地を促進し、地域産業の振興と雇用の確保につなげます。
- 性別や年代にかかわらず、多様な人材が市内企業で活躍できるよう支援します。

変えること（始めること、進化させること）

- 事業者支援ネットワークを軸に、事業者との対話を重ねて個別の経営課題やニーズを的確に把握し、関係機関が連携して最適な解決策を提案する「伴走型支援」を強化します。
- 企業立地支援制度を活用し、新たな企業立地や既存企業の設備投資・再投資を促進します。また、DXや省力化など、企業ニーズに応じた支援を進めます。
- オープンファクトリーなどを通じ、優れた製品や技術力に加え、働きがい、企業理念、職場環境といった多角的な情報を発信することで、市内企業の魅力を伝え、市民、若者、学生等の地域産業への理解と関心を高める取組を支援します。
- 企業と求職者双方のニーズを踏まえ、交流やマッチングの機会を充実し、多様な人材の市内就職を促進します。
- 教育機関等と連携して学生と市内企業との継続的な接点を設けるとともに、就職後の定着支援にも力を入れることで、地域全体で人材の確保と育成を図ります。

成果を測るものさし

働く意欲のある人に生き生きと働ける場が確保されていると思う市民の割合

39.6%（令和7年度）　▶▶▶　41.6%（令和12年度）

名張市内の中小企業の景気指数（名張商工会議所調べ）

▲29.6%（令和7年度）　▶▶▶　▲25%（令和12年度）

農林業の振興と豊かな自然の保全

はぐくむ　つくる

目指す姿

地産地消の推進や多様な担い手の参画により農業・農村の活力が維持される“なばり農業”と、健全に管理された災害に強い森林が次世代へ引き継がれる持続可能なまち

現状と課題

本市の農林業は、従事者の高齢化と深刻な担い手不足という構造的な課題に直面しています。

生産者の高齢化も進んでおり、意欲ある農業者や新規就農者へ優良農地を円滑に承継していく仕組みづくりが急務です。

林業においては、森林経営管理制度に基づく森林整備は進んでいるものの、多くの森林で所有の境界が不明確なため、効率的な施業や管理を進める上での障壁となっています。

これらの状況を踏まえ、収益性を高める「稼げる農業」の実現を通じた地産地消の活性化、多様な担い手の確保・育成、深刻化する鳥獣被害への対策が求められています。また、林業では、森林経営管理制度をさらに推進し、災害に強く、豊かな自然を次世代へ引き継ぐための計画的な森林整備が必要です。

変えないこと（続けること）

- 地域農業の将来像を地域で話し合い、地域計画策定の取組を継続します。
- 伊賀米、伊賀牛、ぶどう、美旗メロン等の特産品の認知度の向上を図り、ブランド力を強化して、販売促進につなげます。
- 安定した農業生産を維持するため、農業用施設の改修等により長寿命化を図ります。
- 水源涵養や災害防止など、市民が安全に暮らすための計画的な森林整備を継続します。
- 木材の搬出利用と森林整備の効率化を図るための路網密度を向上します。
- 学校林整備事業、森林公園等環境活用整備事業等による森林環境教育を推進します。

変えること（始めること、進化させること）

- 多彩な担い手が名張市の農業に参画できる仕組みづくりを推進します。
- 「IGAGREEN」などを活用した環境負荷低減に取り組む農業の生産・販路・消費の拡大、知名度向上、農業者の所得向上をめざします。
- 捕獲体制の強化とあわせ、集落が主体となった鳥獣害対策を支援します。
- デジタル技術の活用による境界明確化手法の効率化を検討するなど、森林経営管理制度によるさらなる森林整備の推進を行います。

成果を測るものさし

IGAGREEN登録者数

5名
（令和7年度）
▶▶▶
20名
（令和12年度）

観光産業の振興とまちの賑わいの創出

目指す姿

自然、歴史、文化、食、農業など、名張の魅力を生かして交流人口を増やすとともに、関係人口を広げ、観光消費の拡大により地域経済が活性化し、雇用やにぎわいの創出などを通じて、地域全体が活力と誇りに満ちている状態

現状と課題

主要観光地である赤目四十八滝の観光入込客数は、近年、12万人台まで回復し、そのうち外国人観光客数は、目標値を上回る約8千人に増加しました。一方、依然として日帰り客が中心であり、市内周遊や宿泊、観光消費に十分につながっていません。その要因として、周遊や滞在を促す観光コンテンツや受入環境の整備、国内外に向けた効果的なプロモーション、消費額等のデータの把握などが十分でないことが挙げられます。

今後は、人口減少や国内観光需要の縮小を見据え、市内周遊や宿泊、滞在時間の延長や平日の誘客を促し、宿泊、飲食、物販、体験などを通じた観光消費の拡大につなげることが重要です。さらに、来訪者の満足度を高めて再訪を促すとともに、一過性の観光客から地域と継続的に関わる関係人口へとつなげる取組を推進する必要があります。

変えないこと（続けること）

- 観光地域づくり法人（DMO）の役割を担う観光協会や関係事業者と連携し、それぞれの役割を生かした観光地域づくりを推進します。
- 来訪者の動向や市場を分析し、国内外への戦略的な誘客を進めます。
- 地域外の専門的な知見やノウハウを活用し、持続可能な観光地域づくりを推進します。
- 観光関係事業者による市内周遊・体験プログラムの造成や充実を支援し、観光消費の拡大につなげます。
- 社会情勢や観光客のニーズを踏まえ、受入環境の充実や広域連携と一体となった外国人観光客の誘致を推進します。

変えること（始めること、進化させること）

- デジタル技術を活用し、ターゲットに応じた戦略的な情報発信を行うとともに、来訪者の動向や施策効果を分析し、効果的な誘客と事業改善につなげます。
- 市民が観光ガイドとして活躍できる機会を創出するとともに、観光事業者や地域団体など、観光地域づくりを支える担い手を育成します。
- 観光をきっかけとした再訪や二地域居住を促し、来訪者を地域と継続的に関わる関係人口につなげます。
- 年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが安心して出かけられ、名張を訪れることができる環境づくりを進め、平日の観光需要の創出と地域経済の活性化を図ります。

成果を測るものさし

暮らしと自然に配慮した観光地づくりを感じる市民の割合

53%（令和7年度）▶▶▶ 63%（令和12年度）

市内観光消費額

110億円（令和7年度）▶▶▶ 163億円（令和12年度）

シティプロモーションとまちの元気創出

つなぐ

目指す姿

名張に愛着を持ち、まちの将来に主体的に関わる協力者が増え、集い、つながり、まちじゅうが賑わいと活気に溢れる状態

現状と課題

これまでのインナープロモーションの取組を通じ、市民主体で名張の魅力を発信する動きが若者を中心に広がりを見せています。一方で、調査開始以来上昇傾向にあった「名張市シティプロモーション戦略」に掲げる、住民の「まちへの熱量」を数値化した指標“なばらぶ指数”は、直近の調査においてやや下降しました。

インナープロモーションの継続した取組に加え、今後は、戦略的なアウタープロモーションを推進し、本市の認知度向上と関係人口の創出・拡大、さらには、移住の促進と若者の定住につなげていく必要があります。また、こうした取組を進めるにあたっては、WebサイトやSNSを中心にマーケティングを行い、受け手のニーズを的確に把握し分析したうえで、ターゲットを絞り込んだ、戦略的・効果的な情報発信が必要です。

変えないこと（続けること）

- 「名張市シティプロモーション戦略」に基づく市民主導型のシティプロモーションを推進し、市民のまちへの愛着と誇りの醸成、活動人口の拡大とまち全体の価値向上につなげます。
- 三重県ほか関係機関、庁内関係部局、市内各種団体や事業者との連携による移住・定住の促進に取り組みます。

変えること（始めること、進化させること）

- アウタープロモーションの強化によるまちの魅力発信と認知度の向上に取り組みます。
- 専門的なスキルを持つ外部人材を登用し、デジタルマーケティングによる的確なニーズ把握・分析を行い、戦略的で効果的な情報発信を図ります。
- 週末滞在型二地域居住などの取組を通じた関係人口の創出・拡大に取り組みます。
- なばり暮らしに必要な、“すまい”と“しごと”の一体的な取組と情報発信、移住者交流会やおためし宿泊制度の実施により、移住定住促進の取組の充実を図ります。

成果を測るものさし

なばらぶ指数　※市民意識調査における「地域推奨意欲」「地域活動意欲」「地域活動感謝意欲」の平均値を算出した数値

39.3らぶ（令和7年度）　▶▶▶　**42.0らぶ**（令和12年度）

移住・シティプロモーション関連サイトへの年間アクセス回数

22,000回（令和7年度）　▶▶▶　**28,000回**（令和12年度）

文化・歴史の継承と文化芸術振興

つなぐ

目指す姿

伝統文化が地域の誇りとして根付き、日常的に文化芸術に触れることができる豊かなまち

現状と課題

夏見廃寺跡や美旗古墳群といった国指定史跡、地域に根付く能・狂言などの伝統芸能は、本市のアイデンティティを形成し、市民の郷土への誇りを育む貴重な資源です。しかし、これらの伝統文化の多くは、担い手の高齢化や後継者不足という深刻な課題に直面しています。また、市民の文化芸術活動への参加も若年層が少なく、参加者が高齢化する傾向にあり、次世代への継承が危ぶまれています。

歴史や文化を未来へとつなぎ、市民の心豊かな暮らしを実現するためにも、文化財の適切な保存・活用を図るとともに、若い世代が文化芸術に興味を持つきっかけづくりや、市民が主体的に活動できる場の提供が不可欠です。

変えないこと（続けること）

- 名張文化協会をはじめ、関係諸団体との連携の強化を図り、文化に触れる機会を創出し、市民の文化芸術活動への参加を促進します。
- 市内高等学校美術部等へ生徒が制作した作品の出展を促進します。
- 「なばり学」を通じた文化資源の学習機会を提供します。
- 郷土資料館、青少年センター、名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館等の施設を活用した展覧会・イベントの開催を継続します。
- 名張市の伝統芸能である能文化を支援し、市民の地域愛を高める取組を進めます。

変えること（始めること、進化させること）

- 地域の伝統文化振興団体や次世代を担う子どもたちの活動支援の充実を図ります。
- 市民や文化団体など、多様な主体が連携して文化振興を進めるための基本となる「文化振興条例」の制定を目指し、そのための議論の場として文化振興審議会を再開します。
- 若い世代が活躍できる活動の場を提供します。
- 史跡や能楽などの文化資源に関する情報発信を充実させ、地域の魅力を市内外に発信します。

成果を測るものさし

市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで、身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合

39.9%（令和7年度）▶▶▶ **42%**（令和12年度）

住んでいる地域で文化・アート・図工・ものづくりに取り組む・支援してもらえる場所や機会があると感じている市民の割合

39.2%（令和7年度）▶▶▶ **42%**（令和12年度）

郷土資料館、青少年センター、名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館の年間入場者数

39,843人（令和7年度）▶▶▶ **45,000人**（令和12年度）

人権尊重・多様性尊重のまちづくり

つくる

目指す姿

性別や国籍にかかわらず、互いの文化や習慣の違いを理解し合って「多様性」を強みとして認識し、共に安心して暮らせる社会。そして、市民や事業者が協力して、誰もが自分らしく生活でき、困難に直面したときには適切に支えられ、人権が尊重されていると実感できる社会

現状と課題

性別や国籍にかかわらず、誰もが自分らしく安心して暮らせる社会の実現は、まちづくりの基本です。しかし、市民意識調査では、男女の固定的な役割分担意識が根強く残っており、外国人住民が増加する中で、文化の違いへの不安の声も聞かれます。また、部落差別をはじめとするあらゆる差別について、関心の低い層への働きかけも重要です。

こうした意識の問題に加え、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性への理解促進や、インターネット上の人権侵害への対策も現代的な課題として浮上しています。すべての人々の人権が尊重され、多様性がこのまちの強みとなる社会を築くため、継続的な啓発活動や相談支援体制の充実が不可欠です。

変えないこと（続けること）

- 人権に関わる悩みごとを相談できる体制を維持・充実させます。
- 外国人住民に対し、生活上の困りごとに関する相談・通訳・翻訳サポートを継続します。
- 地域住民と外国人住民が互いの文化を理解しあう交流イベントや、外国人住民のための日本語教室を継続して開催します。
- 市民、企業、教育現場など、社会のあらゆる場面で人権について考える研修や学習の機会を提供します。
- 研修会やイベントでの啓発パネルの展示など、様々な機会を通じて人権意識の向上を呼びかけます。
- インターネット上の差別的な書き込みなど、人権を侵害する動きに対しては、監視を継続し、適切に対応します。

変えること（始めること、進化させること）

- SNSやデジタル配信なども活用し、人権啓発の効果的な実施方法を検討します。
- 男女共同参画センター・多文化共生センター・人権センターが、市民にとってより身近で相談しやすい場所となるよう、それぞれの認知度向上と利用者増加を目指します。
- これまで情報が届きにくかった層にも人権問題を「自分事」として考えてもらうきっかけとなるよう、啓発のあり方を見直します。

成果を測るものさし

男女の固定的な役割分担に同感しないという市民の割合

81.9%（令和7年度） ▶▶▶ **87%**（令和12年度）

部落差別をはじめとする、あらゆる差別を解消するため、自らができることを考え取り組みたいと思っている市民の割合

61.2%（令和7年度） ▶▶▶ **70%**（令和12年度）

日本人と外国人が互いの文化的差異を認め合い、地域で共に生きていく共生社会がよいと思う人の割合

64.5%（令和7年度） ▶▶▶ **73%**（令和12年度）

魅力ある都市空間と交通ネットワーク形成

つなぐ　つくる

目指す姿

公共交通や多様な移動手段を適切に組み合わせたネットワークで結ばれ、利便性と持続可能性を備えたコンパクトなまちづくりを進めると共に、都市・農地・森林の適正な利用と調和のとれた管理を通じて、豊かな自然と魅力あふれる都市空間が広がるまち

現状と課題

人口減少と高齢化が進む中、将来にわたり持続可能なまちであるために、居住エリアや商業・医療・福祉といった生活に必要な機能を集約し、それらを公共交通でつなぐ「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方に基づいたまちづくりを推進します。

まずは、すべての土地利用の基礎となる地籍の明確化を進め、適正な土地利用・管理を通じて、良好な環境と持続可能な土地利用の基盤を整えます。

その上で、歴史や文化、自然資源などの地域特性を生かしながら、居住や都市機能の適切な立地を促し、多様な移動手段による拠点間の連携を強化することで、次世代へ引き継ぐ強靭でコンパクトなまちづくりの実現を目指します。

変えないこと（続けること）

- コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造を目指し、居住、都市機能等の拠点形成と拠点間連携のための交通施策を進めます。
- 用途地域等の見直し方針に基づき、地域組織との連携により用途地域等を検討します。
- 地域コミュニティバスの地域実情に応じた再編（デマンド・地域間連携）の検討と、路線バス、デマンド、公共ライドシェア等を組み合わせた最適な交通体系への再編を進めます。
- 優良農地の保全と、都市化地域での適切な土地利用転換を図ります。
- 第2次名張市地籍調査事業実施計画に基づき、地籍調査を推進します。

変えること（始めること、進化させること）

- 都市マスタープランと地域公共交通計画の連動を強化する見直しを行い、地域特性に応じた拠点形成と多主体が連携した移動手段による拠点間連携を強化します。
- 利用者の声やデータに基づき、コミュニティバス「ナッキー号」がより利便性の高い運行となるよう、路線や便数のあり方を検討します。
- 多様な移動手段の情報を整理・共有し、地域の実情に応じた交通の見える化を進めます。
- かわまちエリアとまちなかエリアを一体的に整備するとともに、結節点となる旧細川邸やなせ宿を官民連携による新たな交流拠点として再生を図り、市民や多くの主体が活動し賑わいを生み出すことのできるまちなか空間や親水空間の創出を目指します。
- 測量、登記、戸籍に関する専門知識を有する人材の確保と育成に取り組みます

成果を測るものさし

公共交通など市内の交通環境に満足している市民の割合

36.7%（令和7年度）　▶▶▶　45%（令和12年度）

秩序ある土地利用が行われていると感じる市民の割合

54.6%（令和7年度）　▶▶▶　56%（令和12年度）

自分が住む地域におけるまち並みなど景観や環境が良好であると感じる市民の割合

74.4%（令和7年度）　▶▶▶　76%（令和12年度）

脱炭素・資源循環型社会の推進

つくる

目指す姿

ごみの減量や資源化が進み、再生可能エネルギーが活用される、環境配慮型のまち。市民・事業者・行政が一体となり、脱炭素社会の構築と資源循環型社会を実現している状態

現状と課題

現在、省資源・省エネルギーを心掛けている市民の割合は83.2%であり、ごみの減量・分別・資源化を実践している市民の割合は94.4%と高い水準を維持しており、令和6年度の1人1日当たりのごみ排出量は県内市で最も少ない状況です。しかし、ゼロカーボンシティの実現に向けては、再生可能エネルギー設備の導入支援、脱炭素型ライフスタイルへの転換、そして伊賀南部クリーンセンターの操業期限（令和15年度末）を踏まえた持続可能なごみ処理体制の構築が急務となっています。

変えないこと（続けること）

- 分別方法の周知啓発や指導を継続し、生ごみ減量作戦や草木類の資源化など、ごみの減量・資源化を推進します。
- 小学校での環境学習や出前トーク、市役所が率先して行う省エネ活動（クールビズ等）を通じて、環境意識の醸成に努めます。
- 伊賀市・南山城村と連携したごみ処理広域化に向けた事業を推進します。

変えること（始めること、進化させること）

- 再生可能エネルギー設備の導入を促進するための支援のあり方を検討します。
- 新たな資源循環の仕組みにより、ごみ処理の過程で生まれるエネルギーの有効活用を推進します。
- 持続可能なごみ処理事業の運営に向け、適正な負担のあり方を検討します。
- 生ごみ対策を軸とし、より経済的・効率的に資源化を進める手法を構築します。

成果を測るものさし

日常生活で省資源・省エネルギーを心掛けている市民の割合

83.2%（令和7年度）▶▶▶ **92%**（令和12年度）

ごみの減量・分別・資源化を実践している市民の割合

94.4%（令和7年度）▶▶▶ **95%**（令和12年度）

第5章　これからの行政経営



計画を実現するために、市役所は
何をするの？

市民や地域、事業者などと力を合わせる「共創」を進め、
行政サービスや財政、公共施設、組織などを
より良くしていきます。
持続可能な行政経営で、計画を下支えします。



経営的施策

多様な主体との共創

市民、企業、行政がそれぞれの強みを活かし、垣根を越えて手を取り合うことで、持続可能なまちづくりを一体的に取り組んでいる地域社会を目指す取組です。

行政が全体をつなぐプラットフォームとなり、多様な主体が自発的にまちづくりに取り組める環境を構築します。

成果を測るものさし

民間企業との包括連携協定による取組件数

12件（令和7年度）▶▶▶ **20件**（令和12年度）

●公民連携の推進

・公民連携提案制度を活用し、地域の課題解決に取り組みます。
・民間事業者や地域づくり組織など、多様な主体との連携を深め、新たな価値やサービスを創出します。
・地域経済の担い手である市内事業者を代表する名張商工会議所との連携を強化し、人口減少という共通課題の解決を協働で進めます。

●広域連携の推進

・定住自立圏による圏域全体の生活機能の確保に取組みます。
・観光・産業振興など、広域的な地域経済の活性化を進めます。
・ごみ処理、地域医療、防災、消防など広域で連携することにより、行政サービスの維持、効率化を図ります。

行政改革（行政事務の効率化）

デジタル技術などを活用し、市民サービスの利便性向上と、持続可能な行政運営の効率化を両立させるための取組です。

効率的で持続可能な市役所運営を進め、誰もが快適で便利なサービスを受けられる状態を目指します。

成果を測るものさし

行政サービスの質や利便性について満足していると感じる市民の割合

62.2%（令和7年度）▶▶▶ **65.0%**（令和12年度）

●持続可能な行政運営に向けた取組

・事業の目的や成果、市民ニーズなどを踏まえ、事務事業の見直しや業務改善を進めます。
・民間との連携や外部人材の活用、財源の確保、組織・業務体制の見直しなどに取り組みます。

●DXの推進と市民サービスの利便性向上

・デジタルツールを活用し、行政事務の効率化や業務改善を進めます。
・市公式LINEやオンライン申請、マイナンバーカードの活用などにより、市民サービスの利便性を高めます。

経営的施策

行政経営（財政・施設・組織）

限られた資源（財源・人員）が最も効果的に配分され、未来に向けた投資と安心のサービスがバランスよく両立している、強固な行政経営の基盤を確立するための取組です。

将来世代に負担を先送りしない持続可能な行財政運営を目指します。

成果を測るものさし

財政調整基金残高

10億円以上

●持続可能な財政運営の推進

・財政構造の健全化を進めます。
・ふるさと納税など、自主財源の確保に努めます。

●公共施設マネジメントの推進

・公共施設の最適化と長寿命化を進め、投資の効率化を図ります。

●組織・職場環境の整備

・民間活力を導入するとともに、働き方改革を推進します。
・時代に適応した、多様な人材の育成と確保に取り組みます。

広報・広聴

市の目指す未来が市民の皆さんと共有され、あたたかい対話と共感の中から、新しいまちづくりの活気、賑わいが生まれている地域社会を目指す取組です。

市の未来とビジョンを市民と共有し、双方向の対話で施策運営へつなぎます。

成果を測るものさし

現在の名張市の情報提供や広聴制度について満足している市民の割合

77.3%（令和7年度）▶▶▶ 80%（令和12年度）

●すべての市民へ「伝わる」広報の実践

・市民の皆さんの共感を呼び、主体的な行動につながる情報発信に取り組みます。
・市役所の運営状況を分かりやすく公開し、市民との信頼関係を築きます。
・一人ひとりに届く方法で、市政の情報を分かりやすく、確実に届けます。

●対話から施策へつなぐ双方向の広聴

・多様な世代の皆さんと対話する場を積極的につくります。

第6章　地域ビジョンで動かす、15のまちづくり
（地域別計画）



私たちの地域の思いや取組を、
市の総合計画にも位置付けるんだね。

地域の皆さんが描く将来像や取組を、
市の総合計画の一部として共有し、
市の施策と地域の活動をつなげます。
地域の自主性を大切にしながら、
市と地域が同じ方向を向き、それぞれの役割で
持続可能なまちづくりを進めます。



名張地区まちづくり協議会

まちづくりの将来像

「名張の原風景と人情が息づく魅力あるまち」

ここには、様々な地域資源があり名張のまちの原風景があふれています。今となっては特別となってしまったまち並みを生かしながら、人々が集い、賑わいのあるまちの再生に取り組みます。

また、ここに暮らす人が世代を問わず安心していきいきと過ごせるよう、人と人が支え合い、誇りと愛着の持てる持続可能なまちづくりを目指します。





まちづくりの基本方針

- 地域文化や歴史資源を活かしたまちづくり
- 豊かな自然を大切にし、散策したくなるまちづくり
- 活気あふれた賑わいのあるまちづくり
- 人と人が支えあい楽しく暮らせるまちづくり
- すべての世代に夢と希望を与えるまちづくり
- 安心して暮らせる安全な災害に強いまちづくり

	人口	世帯数
令和4年10月	6,065人	3,292
令和7年10月	5,822人	3,247

第1次計画期間の成果と課題

コロナ禍を乗り越え、名張秋祭りを次世代へ引き継ぐ取組が進み、さらにかわまちづくりなどの暮らしを良くする取組が進みました。また、名張学園祭をはじめとする、世代を問わず、誰もがやりたいことにチャレンジできる取組をスタートしました。隠街道市では地域住民、商工業者、市民活動団体等が協働して、交流イベント等を実施しました。

今後は、空き家活用も含め、やなせ宿等の歴史的・文化的資源の魅力を生かしたまちづくりを進めます。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

「おたがいさん」「プチトマト」「よってだーこ」等を通じて、人と人の関わりを大事にしながら、世代を超えて地域ぐるみで支え合い、すべての人が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくりを進めます。また、引き続き防災活動にも取り組みます。

未来を創る

名張学園祭、まちの図工室などをはじめとする、世代を問わず、誰でも新しいことにチャレンジすることができ、また、それを応援する環境づくりを進めます。

中央ゆめづくり協議会

まちづくりの将来像

「みんながつどい、いつまでも住み続けたいまち」

市の中心部に位置し、名張市の行政・業務・情報交流等の都市機能が集約された新しいまちです。

行政・商業の「顔」だけでなく、緑あふれる都市居住空間として、誰もがつどい、いつまでも住み続けられるまちを目指します。

併せて、地域の人々が交流を深め、一層、人と人とが繋がることができる町を目指します。





まちづくりの基本方針

- 安全で快適な環境の絆を育むまちづくり
- 支えあい安心の福祉の絆を深めるまちづくり
- 自助共助、助け合い、安全の絆を高めるまちづくり
- 集う、憩う、ふれあう、交流の絆を広げるまちづくり
- 地域力を活かして未来への絆をつなぐ創造のまちづくり

	人口	世帯数
令和4年10月	2，713人	1，495
令和7年10月	2，823人	1，588

第1次計画期間の成果と課題

住民が安全で安心して住める街、楽しく生き生きと暮らせる地域を目指し、夏祭り等の各種イベントやゆめづくり館等で実施する各種学級、サークル活動には、多くの住民が参加し、住民間の交流が活発になっています。今後とも当地域を一層憩い、集える環境にしていく必要があります。さらに、地域課題の検討においては、ワークショップを開き、幅広い世代の方々の意見を地域づくりに反映させています。

また、集合住宅の住民にも地域づくり活動への関心を持ってもらうことに加えて、外国人居住者との共生は今後の課題であり、そのあり方を検討していきます。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

住民の安全安心を確保するため、南海トラフ地震等の大規模災害に備え、令和7年度に非常災害時の住民の行動指針を策定しました。行動指針を住民に理解いただくことでさらに災害対策を強化します。

未来を創る

住民が集い，憩い、交流を深めるため、多様なイベントを実施します。公園の環境整備、各種サークル、学級等の生涯学習、子育て支援活動、子どもの見守り活動をとおして住民の交流を図るとともに、住みよいまちづくりを推進します。外国人居住者にも各種イベント等に参加してもらえるよう促し、多文化共生を目指します。

蔵持地区まちづくり委員会

まちづくりの将来像

「都市機能と緑あふれる田園風景が共存するまち」

美しい田園風景に囲まれた農村集落と閑静な住宅団地の他に、産業拠点となる工業団地や大型商業施設など、様々な都市機能を併せ持った地域です。この蔵持地域の特性を活かして、新しい都市機能と昔からの緑あふれる美しい田園景観が共存できるまちを目指します。





まちづくりの基本方針

- 健康で生き生き暮らせるまちづくり
- 歴史と文化のまちづくり
- 安全、安心のできるまちづくり
- 環境に優しいまちづくり

	人口	世帯数
令和4年10月	3，458人	1，613
令和7年10月	3，354人	1，645

第1次計画期間の成果と課題

コロナ禍より、『なんでもやるやるくらもちやで。』を合言葉に、様々な活動に挑戦してきました。

音楽の祭典や『わくわく広場』などで構成した市民センター祭には、2日間延べ約1,100人が来場し、夏休みこどもスペシャル『マルっと1日遊ぼうぜ！』にも多くの子どもたちが参加してくれました。また、ボランティアの募集では、蔵持地域の住民だけでなく、高校・中学校・小学校の児童・生徒等広く呼びかけたところ、100人にも及ぶ皆さんに参加していただきました。

今後も、活動のさらなる充実と継続に努め、「参加してみたい」「やってみたい」と思えるような取組を進めていきます。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

地域住民に蔵清水の井戸の利用の仕方を周知し、子どもから大人まで含めた防災訓練を定期的に実施するなど、自然災害時における日頃の備えを充実させます。

未来を創る

地域住民のコミュニケーションを深めるためのイベントを実施します。子どもから高齢者まで世代を超えて支え合い、地域のつながりを大切にしながら、安全、安心で活気のある誰もが住み続けたいと思える街づくりを進めます。

川西・梅が丘地域づくり協議会

まちづくりの将来像

「誰もが生きいきと輝いて暮らすことができるまち」

地域住民の参加と総意、責任によって誰もが生きいきと輝いて暮らす事ができるまちづくりを目指します。





まちづくりの基本方針

- 人にやさしい支え合う社会の推進
- 災害に強く、犯罪や事故のない安心・安全なまちづくりの推進
- 活力ある地域活動の推進
- 環境にやさしく美しいまちの推進
- コミュニティ・スクールの推進

	人口	世帯数
令和4年10月	6，487人	2，706
令和7年10月	6，141人	2，708

第1次計画期間の成果と課題

少子高齢化が進行する中、後継者の育成が課題となっていますが、子育て、若者世代が暮らし続けられる魅力ある地域づくりのため、青年部を発足し、若者の地域活動への参画につなげています。また、子どもたちの地域への愛着形成のため、タイムカプセル事業を実施してきました。今後は実行委員会方式での開催に移行予定であり、事業の更なる充実を図ることとしています。

一方で、環境維持活動や青色回転パトロール、防犯カメラの運用等による安全安心な地域社会の構築についても引き続き取り組んでいきます。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

環境維持活動の推進及び青パトの強化と防犯カメラの維持管理による安全で安心な暮らしが出来るまちづくりを推進します。また、ライフサポート事業の推進及び子育て事業などの充実を図ります。

未来を創る

美しいまちづくりの推進などによる魅力ある地域活動及び、より安全で安心な生活ができる魅力ある地域の構築を進めます。

特定非営利活動法人　薦原地域づくり委員会

まちづくりの将来像

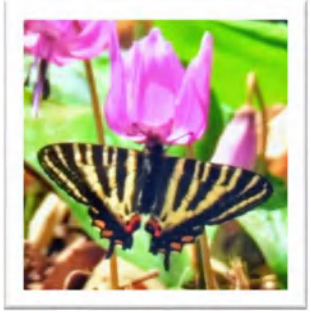
「やすらぎのふるさと薦原」

～わたしたちのきずなでつむぐ、安心・安全・安住の里づくり～

住民の交流や助け合いによる「ひとづくり」を通して、誰もが暮らし続けたいと感じる魅力ある「やすらぎのふるさと」の創造を目指します。







まちづくりの基本方針

- 快適な道路環境の形成
- 親水空間の創造
- 薦原公園の拠点性向上
- 地域資源の育成
- 安心・安全ネットワークの構築
- 地域の魅力発信

	人口	世帯数
令和4年10月	2，010人	890
令和7年10月	1，932人	895

第1次計画期間の成果と課題

高齢化、担い手不足、などの課題はありますが、自然に恵まれた地域の中でチームワークで「やすらぎのふるさと薦原」を目指して地域づくりに取り組んでいます。組織強化策の1つとして、ビジネス等による自主財源確保も目指し令和7年度にNPO法人に移行しました。

薦原コミュニティバスは、利便性や利用者減少等の課題解決のため、令和8年度から定時定路線バス「コモコモ号」と、公共ライドシェア「コモコモらいど」による2形態の本格運行を始めました。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

薦原コミュニティ交通の安心安全な運行管理と、利便性の向上に努め、地域の足として持続可能な移動手段の継続に取り組みます。

地区防災計画の策定や個別避難計画の具体化に取り組みます。

未来を創る

薦原公園の拠点性向上として、若者の参画を力に、ポットラックパーク薦原などによる賑わい創出と地域活性化に取り組みます。

耕作放棄地の有効活用や地産地消により、農産物栽培、販売等を行い、地域づくりの稼ぐ力の向上に取り組みます。

地縁法人　美旗まちづくり協議会

まちづくりの将来像

「活力と潤いのあるまちづくり・人づくりを通じて ひろがりのある地域を目指して」

人と人とのつながりや地域連帯の重要性を改めて認識し、「だれもがやさしい福祉のまちづくり」や「住んでよかったと実感できる活力と潤いのある地域づくり」を目指します。



まちづくりの基本方針

- 自然と歴史が香る　「史跡と文化のまちづくり」
- だれもが生きいき　「安全安心のまちづくり」
- 活力と潤いのある　「潤いあるまちづくり」

	人口	世帯数
令和4年10月	7,874人	3,655
令和7年10月	7,635人	3,702

第1次計画期間の成果と課題

美旗地域でも高齢化が進んでいます。そのような中でも、各事業部が英知を出しあい、まちづくりの将来像に向けて事業を展開してきました。

美旗の歴史文化の学び、どんど行事等の地域の歴史や伝統を伝える事業をはじめ、支え合い活動としての高齢者への「はたっこサポート」や青色パトロールカーでの巡回等暮らしを守る取組も行ってきました。また、地域の魅力向上としてめばえファームのひまわりの管理や、MJクラブを通して地域で子どもたちを育む取組など、様々な事業を着実に推進し、活力と潤いのあるまちづくりを目指してきました。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

移動手段の確保、見守り活動、地域行事等の維持を、暮らしの重点課題と考え、安心・安全・支え合いの維持強化を目指します。

未来を創る

高齢化社会において、楽しめる地域化と地域での支え合いの維持強化を模索します。若者が参加しやすい、まちづくりの役割を用意し、継続的に関与してもらい、活力と潤いあるまちづくりを目指します。

ひなち地域ゆめづくり委員会

まちづくりの将来像

「住民の視点から人権が保障され 安全・安心に暮らせる福祉の増進と生活環境の実現」

歴史文化の農村集落と新興住宅地がひとつに融合・連携し、住民が自ら考え、行動を起こし、安全で安心して暮らせる地域づくりを目指します。





まちづくりの基本方針

- 自然との共生・共存による保全と活用
- 地域の歴史・文化の発掘、尊重と活用
- 老若男女の居場所や健康づくり等の環境づくり
- 安全・安心で快適なまちづくり
- コミュニティの拠点づくりと支え合いのまちづくり

	人口	世帯数
令和4年10月	4，766人	2，092
令和7年10月	4，613人	2，125

第1次計画期間の成果と課題

基本方針に基づき、各種事業を推進してきました。しかし、参加者の高齢化が進み、新たなメンバーが入ってこなかったり、運営を担うボランティアの減少が課題となっています。また、市民センターは立地面から利用促進が進みにくい面もありますが、職員による参加してもらえる事業の企画立案を創意工夫して行っています。

今後も新たな企画等を展開していきます。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

想定外の災害の増加や犯罪の凶悪化の心配がされる中、地域全体での防災訓練の強化や広報活動など、危機感を共有し地域を挙げて取り組んでいきます。

未来を創る

少子化や人口減少が進む中、地域づくりの組織に中高生や子どもたちの参加を促し、新しい発想を取り入れ、地域全体での取組を進めます。

地縁法人すずらん台町づくり協議会

まちづくりの将来像

「安全・安心で、笑顔が絶えない活力のある町づくりをめざす」

地域コミュニティを生かした交流や支え合いにより、いつも笑顔が絶えることのない、魅力的で誇りの持てる町づくりを目指します。





まちづくりの基本方針

- 高齢者や障がいのある人が安心して暮らせる福祉の町づくり
- 子ども達が登校しやすいような歩道の整備や高齢者や障がいのある人達の生活支援を充実させるなど、住みよい町づくり
- 異常気象などの大規模災害に対応でき、犯罪や事故のない環境づくりで、安全・安心な町づくり
- 地域の文化活動を活発にするとともに、子ども達の居場所づくり・大人たちの生涯学習を充実させる人づくりの町
- 住民の活発な交流で活力のあるコミュニティづくり

	人口	世帯数
令和4年10月	3，501人	1，584
令和7年10月	3，373人	1，591

第1次計画期間の成果と課題

令和4年度に認可地縁団体として法人格を取得し、事務局機能の充実に取り組むことで、各種事業を拡充してきました。特に子ども支援を充実させるとともに、地域環境維持のために、地域猫活動や草刈り隊の結成などの取組を開始しました。

ライフサポートクラブにおいても、移動支援事業を開始することで、利用会員数も増加し、生活支援やコミュニティバス事業のさらなる充実も図っているところです。民生委員や配食ボランティアによる見守り活動も地域の高齢者福祉の一翼を担っています。

また、納涼夏祭りでは多くの子ども・若者が集い、市内の花火打ち上げの中では、一番高いところから打ち上げられる花火として賑わいの花を添えています。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

ライフサポートクラブなど各種事業を着実に実施し、子どもの居場所づくり、若者支援など生活支援、居住環境の維持充実を図ります。

未来を創る

地域ビジョンや各種事業を定期的に見直し、社会課題に取り組みます。地域づくりの活動を通じて、すずらん台大好き人間を増やし、後継者の育成に努力します。

地縁法人 錦生自治協議会

まちづくりの将来像

「活力と潤いのあるまちづくり、人づくり」

「自分たちのまちは自分たちでつくる」の観点から、住民の思いや願いを反映し、活力と潤いのあるまちづくり、人づくりを目指します。





まちづくりの基本方針

- 自然保護と地域整備
- 史跡の保存と活用
- 地域におけるコミュニティビジネスの創出
- 安全・安心のまちづくり
- 地域を愛する人づくりと居場所づくり

	人口	世帯数
令和4年10月	1，425人	661
令和7年10月	1，298人	636

第1次計画期間の成果と課題

竜口・城山城址、茶臼山のウオーキングコースの整備を進め、ウォーキングイベントを実施するなど史跡の保存と活用を行いました。安全・安心のまちづくりを目的として、防犯カメラを設置し、保守管理を行っています。地域コミュニティバス「ほっとバス錦」の安定的な運営に努め、地域住民の移動手段を維持しています。

また、かねてより国へ要望してきた宇陀川の水辺環境整備や支障物の撤去が行われました。また、災害防止として、地域要望も踏まえ、砂防堰堤の設置が進められました。

「コミュニティビジネス」の創出は叶わなかったものの、毎年開催している「家庭料理大集合」のイベント等を通じ、商品開発に挑戦していきます。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

安全・安心のまちづくりのため、地域全体での防犯活動、自主防災体制の確保、ハード面の災害防止整備の他、地域コミュニティバス「ほっとバス錦」の安定的な運営に取り組みます。

未来を創る

子どもが地域を愛し、健やかに成長するため、子どもの地域行事への参画などの環境構築に取り組むほか、地域住民だれもが、はつらつと活躍できる居場所づくりを進めます。

赤目まちづくり委員会

まちづくりの将来像

「みんなで考え みんなでつくる 夢はぐくむ わがまち あかめ」

安全安心に対する取組が充実しているまちになることを期待し、若い世代も参画したまちづくり組織をより充実することにより一層の活性化を図り住民が快適に暮らせるまちづくりの推進を目指します。





まちづくりの基本方針

- 歴史と文化を育む　魅力あふれる　わがまち　あかめ
- ともに支えあい　健康でいきいきと暮らせる　笑顔あふれる
わ　が　ま　ち　あ　か　め
- 互いに認め合い　誰もが大切にされる　わきあいあいの
わ　が　ま　ち　あ　か　め

	人口	世帯数
令和4年10月	3，401人	1，608
令和7年10月	3，165人	1，553

第1次計画期間の成果と課題

地域住民が孤立せずに安心して暮らし、子どもたちが地元に愛着を持ってもらえるような参加型の行事を行ってきました。

また、人口減少と住民の高齢化による空家・空地の増加に対し、相談会を開催しました。さらに「ふるさと応援隊」を立上げ、居住地・空家・空地の伐採・除草作業を行い地域の生活環境、美観を維持しています。

赤目滝の観光客の増加に向けて、赤目滝入口の街並み整備、駐車場の無料化、季節ごとのイベントの開催等の企画により、観光客数が回復傾向にあります。 何よりも住民が困ったときに頼られるまちづくり委員会にしていきたいと考え、各種事業を実施しています。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

高齢者の日常生活支援のための安心ネット、ふるさと応援隊による居住地の除草作業、まちの保健室による高齢者の認知症についての講習会の開催等を支援することで頼れるまちづくりを行います。

未来を創る

子どもたちが地域に愛着を持ってもらうためのイベントや各種教室の開催、駅前の旅ステーションの活用に地域活性化を目指します。

箕曲地域づくり委員会

まちづくりの将来像

「どこにも誰にも誇れる『住みやすさ最優秀』の創造」

地域とゆかりある「桃」をイメージコンセプトとした、豊かな人間関係やみんなの暮らしを守る安心安全のまちづくりを基本とし、住民の生活や環境が充実し活力のある、ずっと住み続けたいと思える地域を目指します。





まちづくりの基本方針

桃の花　上品な桃色の花は暖かい春を告げます　⇒　みんなが生きがいを持って暮らせる明るい未来のまちをつくります

桃の実　桃の実は幼児のほっぺのようで、思わず触りたくなります　⇒　人とのふれあい、みんなの絆を大切にするまちをつくります

桃の木　古くより桃は災いから守ってくれるといわれています　⇒　みんなの暮らしを守り安心安全なまちをつくります

	人口	世帯数
令和4年10月	2，653人	1，378
令和7年10月	2，552人	1，391

第1次計画期間の成果と課題

コロナ禍で停滞していた地域、世代の交流ができるよう夏祭り、文化祭などにおいて工夫を凝らし、参加することでの楽しさを創出し、絆や連帯感を育みました。さらに、小学校の150周年記念事業と細やかに連携することで、郷土愛の醸成と地域コミュニティのさらなる活性化という大きな成果を得ました。

今後は、育んだ絆を活かし、少子高齢化においても地域の環境をまもり、歴史文化行事の継承など、持続可能な地域運営組織へのシフトや、効率的な運営体制の構築が課題です。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

地域の防災、防犯のチェックを怠らず、安全な生活環境や体制を整備します。また、見守り活動を活性化し、ともに支え合いながら不安なく暮らせるまちを目指します。

未来を創る

保育・教育・医療・商業など生活の利便性と地域の温かみを活かし、子育てしやすい地域No.1を目指します。

また、豊かな自然と田園を守る仕組みと住みやすい土地活用により、活力のある地域を目指します。

一般社団法人 青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会

まちづくりの将来像

「豊かな自然と触れ合う、安全安心で生きがいを感じるまちづくり」

香落渓や青蓮寺ダムなど水と緑の豊かな自然を地域のかけがえのない財産として、大切に守り、人と自然が共生する潤いのあるまちづくりと、周辺環境に調和した人が行き交い活力あふれる、安全で快適なまちづくりを目指します。





まちづくりの基本方針

- 住民の交流促進でいきいきコミュニティづくり
- 健康増進・福祉の充実でやさしいまちづくり
- 住みよい環境の整備で安心安全な環境づくり
- 地域文化を継承し、生涯学習の充実でひとづくり
- 就労（地域貢献）で生きがいづくり

	人口	世帯数
令和4年10月	7, 256人	3, 085
令和7年10月	6, 977人	3, 110

第1次計画期間の成果と課題

住民の交流、災害時の避難場所としても維持管理が必要な集会所の大規模修繕の備えとしての積み立てを開始できました。

また、防犯灯についても、計画的な維持管理を行うと共に、住民への意識向上を目的とした啓発動画やリーフレットの作成を行いました。

「大人の寺子屋」事業では、生涯学習の充実を図りました。少子化が進む中、YJCC（百合が丘ジュニアキャンプカウンセラー）の育成や「百合小こどもクラブ」の活動を通じ、子どもたちの健全育成を図りました。一方、自治会の役員をはじめ様々な担い手が不足しており、事業継続への課題も山積しています。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

防災や防犯をはじめ安心して暮らせる新しい“つながり”を創造します。有償ボランティアの仕組みを充実させると共に、新たな就労機会の創出を検討します。

未来を創る

イベントの企画段階から学生や若者に参画を促し、担い手育成につなげます。経験者が若者に伝承しながら、お互いに未来を創造していきます。

国津地区地域づくり委員会

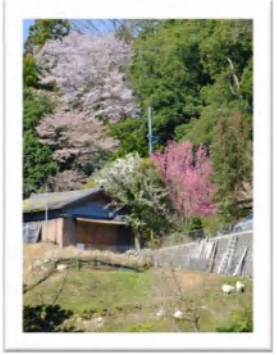
まちづくりの将来像

「豊かな自然と触れ合う、安全安心で生きがいを感じるまちづくり」

山あいに点在する美しい農山村集落があり、四季を通じて自然に恵まれています。

また、2つのダムの水源地でもあります。こうした豊かな自然との共生とともに、農山村の生活環境の整備・向上や市内外の交流の場づくりの推進を目指します。





まちづくりの基本方針

- 皆で創る地域の暮らし
- 安心・安全で住み良い暮らし
- 多様な地域資源で支える暮らし
- 元気で誇りのある暮らし
- 新しい仲間と共に創る暮らし

	人口	世帯数
令和4年10月	508人	281
令和7年10月	445人	281

第1次計画期間の成果と課題

5つのまちづくりの基本計画に沿った事業展開を行ってきましたが、それぞれの事業については、概ね目標通りに達成されました。特に安心・安全で住みよい暮らしを望む地域住民（主に高齢者）に視点をおいた「支え合い事業」と「コミュニティバス運行」は、地域にとって欠かせない事業として定着しています。

しかしながら、支え合い事業の担い手の高齢化とコミュニティバス利用者の大幅な減少並びに運転手の高齢化により、存続の難しさが重くのしかかっており、今後は公共ライドシェア（ドア toドア）の早期実現が望まれています。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

高齢者が安心・安全に暮らせる地域として、支え合い事業と交通空白を避けるべくコミュニティバス運行を中心に継続しつつ、また住民相互の見守りを通して防犯意識の向上に努めます。

未来を創る

歴史と文化が育んだ景観や食の源泉を活かしつつ、また担い手の高齢化の現状を和らげるべく若者の定住化が進み、日々平穏に暮らせる環境づくり（災害・防犯への不安解消）に取り組みます。

桔梗が丘自治連合協議会

まちづくりの将来像

「人の心が織りなす幸せ社会“ほっとまち” 桔梗が丘」

人がいきいきと輝き、互いを思いやり、支え合い、自分らしさを出せるよう、「人づくり」や「絆づくり」を大切にして、住み良さが実感できる“ほっとまち”桔梗が丘を創ります。





まちづくりの基本方針

- 元気・賑わい“ほっとまち”
- 安心・安全“ほっとまち”
- 生きがい・健康“ほっとまち”
- 緑・環境“ほっとまち”
- 子ども・未来“ほっとまち”
- 自律・規範“ほっとまち”

	人口	世帯数
令和4年10月	13, 897人	6, 018
令和7年10月	13, 449人	6, 050

第1次計画期間の成果と課題

“ほっとまち”構想に基づき、これまでに5つのプロジェクト事業を立ち上げ、さまざまな活動に取り組んできました。現在では、それぞれの事業で実績を重ね、活発な活動を通じて地域づくりに貢献し、協議会の活動を支えています。

一方で、新たにボランティアとして参加する方が少なく、スタッフの高齢化も進んでいます。このままでは、今後の活動を継続していくことが難しくなることも心配されます。これからも地域の活動を続けていくために、幅広い世代の皆さんに新たな担い手として参加していただく方法を考えていかなければなりません。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

各自治会・区の自主防災隊が、より組織的・継続的に活動できるよう、防災委員会などの支援組織の設置を検討していきます。

未来を創る

継続的な地域づくりを進めるため、事務事業検討委員会を立ち上げ、既存事業の見直しや統合を行いながら、新たな取り組みを展開していきます。

つつじが丘・春日丘自治協議会

まちづくりの将来像

「このまちにず～っといたい！ ～誰もが胸をはって住みたくなるまちづくり」

地理的な特性や自然、歴史・文化及び豊富な人材等の地域資源を有効に活用し、様々な課題（問題）の解決を図り、このまちにずっと住み続けたいと思えるより良いまちづくりを目指します。





まちづくりの基本方針

- 安心・安全で生きがいを持って暮らせるまちづくり
- 子どもたちを心豊かに育むまちづくり
- 生活環境・マナーを推進するまちづくり
- 心の交流を生み出す文化を核としたまちづくり

	人口	世帯数
令和4年10月	9，302人	4，148
令和7年10月	8，823人	4，185

第1次計画期間の成果と課題

地域の安心・安全のために見守りカメラを設置し行方不明者の発生時等に活用しています。環境美化についても積極的に取り組んできましたが、いつまでも継続していくことが必要だと考え、今後も推進していきます。

また、地域で子どもにかかわるすべての組織が協力し、子どもたちを心豊かに育むことについて考える場を持つことにより、子どもたちもまちづくりに積極的に取り組んでくれる雰囲気となっています。さらに、地域住民の文化振興や交流事業については住民のニーズを踏まえて実施していきます。

第2次計画期間の取組方針

暮らしを守る

①年々老朽化していく集会所等の施設・設備の維持管理
②地域を活性化するための高齢化対策
③市民センターを拠点とし自治協議会を中心とした地域の取組

未来を創る

①移動手段の確保（代行運転・自動運転）
②買い物難民対策
③高齢化対策として各種作業を自動化し、作業の軽減・効率化
④学園都市としての取組
高齢者が住みやすい環境を作るとともに子どもたちが住みたいと思える街づくり

第7章　巻末資料

序章　総合計画について
ー基本構想ー
第1章　基本構想
なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～
第2次基本計画策定のあゆみ
名張市総合計画審議会　委員名簿
諮問書
答申書



ここまで見てきた計画のことを、
もっと詳しく知りたいな。

この章には、計画に登場する用語の解説や、
計画をつくるまでの経過などをまとめています。
これまでの内容を振り返りながら、
名張の未来について、さらに理解を深めていきましょう。



序章　総合計画について

1　総合計画とは

総合計画は、将来どのようなまちにしていくのかの道しるべであり、まちづくりの基本となる計画です。
他の自治体と連携して取り組む広域行政に対して、調整・連携・要請などの計画の基礎となります。

本計画では、基本構想で基本理念と目指す姿と、その実現のため、基本計画で重点プロジェクトと基本施策を定めています。

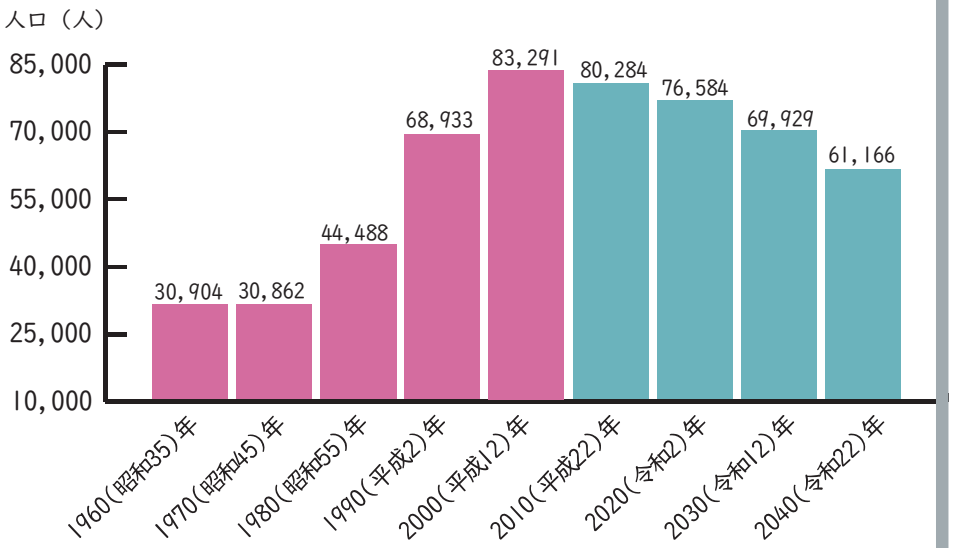
また、この計画は住民をはじめ市内で働く人、学ぶ人、事業者、団体などあらゆる主体に共有される指針です。

２０１６（平成２８）年度に現在の総合計画である「新・理想郷プラン」を策定し、持続可能なまちづくりを目指し、担い手と受け手の区別なく、全ての市民が役割を持って社会参加し、暮らし、生きがい、地域を共に創る「地域共生社会」の実現に向けたまちづくりを進め、市民と地域の力を得ることができました。

しかしながら、名張市の人口については、１９７０（昭和４５）年以降に急増したものの、２０００（平成１２）年をピークに徐々に縮小しており、働き手世代の減少による税収への影響、高齢化に伴う社会保障関連経費の増加が懸念されます。

今、新たな感染症の世界的流行をはじめ、国際情勢の急激な変化や想定外の自然災害の発生など社会のあり方や仕組みが大きな転換期を迎えようとしています。

このような不確実・不安定な時代背景において、変化に対応し、個性的で持続可能な未来を目指すため、総合計画「なばり新時代戦略」を策定します。



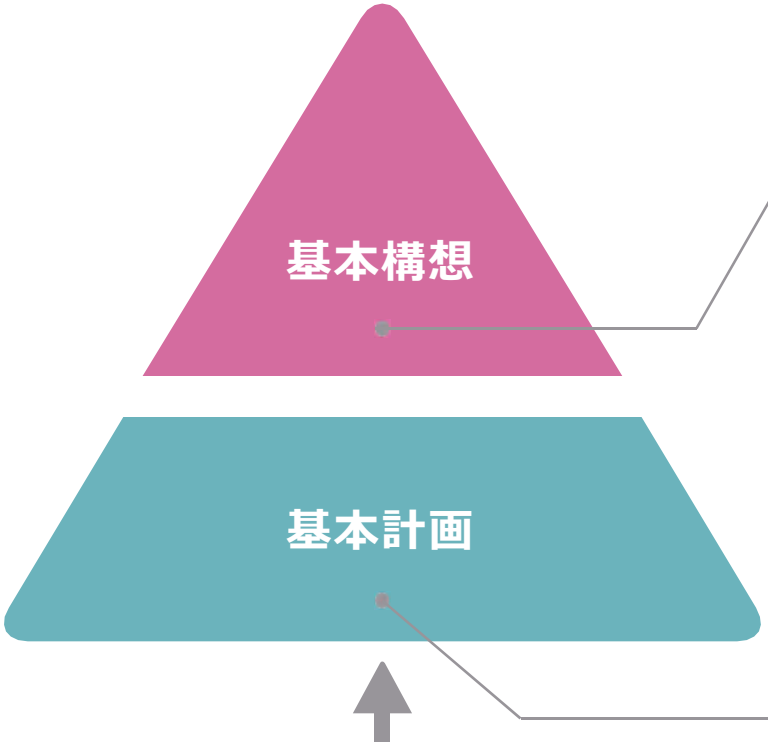
資料：国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所

基　本　構　想

序章　総合計画について

2　総合計画の構成･期間･進行管理

総合計画は、基本構想と基本計画で構成しています。



基 本 構 想

計画期間　１０年間　２０２３（令和５）年度～２０３２（令和１４）年度

中長期的なまちづくりの指針となる基本理念と目指す１０年後の姿を定め、それを実現するための重点プロジェクトと基本施策を示しています。

- **基本理念**
- **目指す１０年後の姿**
- **重点プロジェクトと基本施策**

基 本 計 画

計画期間　４年間　第１次2023（令和５）年度～2026（令和　8）年度
第２次2027（令和９）年度～2030（令和１２）年度

目指す姿や現状課題を明らかにし、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の考え方も踏まえながら、取組内容を示します。

また、市内１５の地域づくり組織において策定された「地域ビジョン」を最大限尊重し、地域と市の協働により、それぞれの地域の特性を活用した個性あるまちづくりに取り組みます。

- **各施策の取組**
- **地域別計画**

評価による計画の進行管理

行政評価を通じて、有効性・効率性・必要性の観点から点検を行い、毎年度その結果を公表します。

基　本　構　想

第1章　基本構想

1　基本理念

語れるまち　なばり

ひととひととのつながりが名張市の財産です。
まちに愛着を持った人がつながり、コミュニケーションが活発に行われ、まちの将来に主体的に関わるひと（協力者）を増やしていくことが重要です。

市内外の協力者を増やしながら、まちの魅力をみんなで発信し、魅力ある場をたくさん作る。

身近な人、周りの人、名張を知らない人たちに名張を語りたくなる。
そういったひとをたくさん増やしていく。

そうすることで、名張「らしさ」をかたちづくることができます。みなさんとにぎわいあふれる「語れるまちなばり」を目指します。



基　本　構　想

第1章　基本構想

２　目指す１０年後の姿

変化をおこし 活力あふれ

みんなでつくる 大好きなまち なばり

社会をはじめ、様々なことは時代とともに変化しています。そういった変化に対応することはもちろんのこと、これからは、市民自らが変化をおこすこと、挑戦することを目指します。

そうすることで、活力あふれるまちをつくり、みんなでつくるまちは、大好きなまちになっている。

名張が大好きなひとたちであふれる。
そして、名張に愛着を持ち、まちの将来に主体的に関わる協力者で更にまちに活気があふれる。

１０年後にそのような名張市を目指します。

「なばり新時代戦略」策定に向けた意見交換会

総合計画の策定に当たり、若い世代を中心に市内１１か所で意見交換会を開催し、参加者から活発な意見をいただきました。

主な意見

名張のいいところ



- 住みやすい
- 小中一貫教育で安心して進学できた
- 田舎過ぎないのがいい
- 散歩にぴったり
- 人が温かい
- 「ひやわい」が魅力的

ここがイマイチ・・・

- 移動が大変
- 目立つものがない
- 農業の後継ぎがいない
- 情報発信が足りない
- 若者が集まれる場所がない
- 名張に何がある？と聞かれると答えづらい





こうすればいい

- 若手の起業を支援
- 「名張愛」で定住を
- 空き家を利活用
- メタバースで名張をＰＲ
- 若い人に活躍の場を
- 名張ならではの仕事を
- 地元食材で新名物を



第1章　基本構想

3　ひととまち

名張市は、ひととまちへの様々な取組を行っています。

概ね小学校区を単位とした１５地域で地域づくり組織を立ち上げ、地域づくり単位で「地域ビジョン」を策定し、地域の特性に応じた住民主体のまちづくりを進めています。

このような「地域力」を基本にして、住民相互の支援を通じて、有償ボランティアによる生活支援や、全世代型・全対象型の地域包括ケアシステムなど、誰もが生きがいを持って、安心・安全に暮らせるコミュニティの形成・充実に向けた取組を進めています。

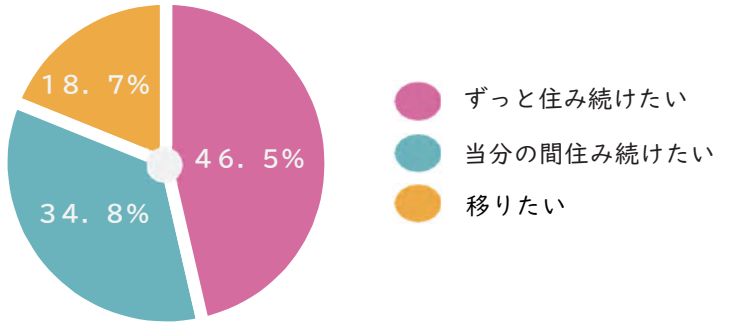
また、産み育てるにやさしいまちの実現を目指し、産前産後の支援を強化し、安心して出産・子育てできる環境を整備するために、フィンランドの「ネウボラ」を参考に、切れ目ない支援として「名張版ネウボラ」に取り組んでいます。

小学校、中学校では、地域への関心を深め、伝統や文化を引き継ぐとともに、次世代の地域の担い手育成の取組としてふるさと学習「なばり学」を行っています。

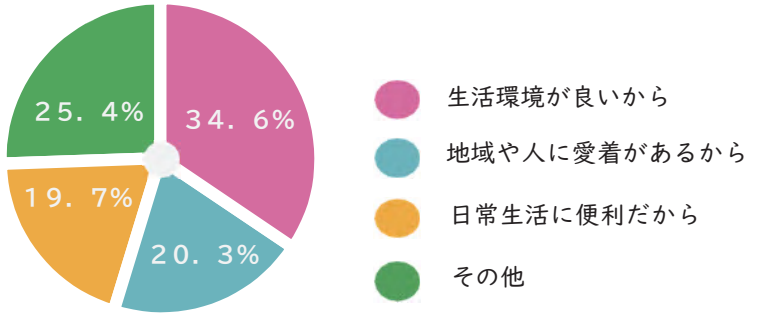
ひととまちへの取組は、名張市の強みであり、地域共生社会の実現に向けた、今後の取組の基盤となります。

この基盤を大切にし、更に進化・発展させ、目指す姿の実現に取り組みます。

今後も名張市に住み続けたいですか？



名張市に住み続けたい理由は何ですか？



基　本　構　想

第1章　基本構想

4　重点プロジェクトと基本施策

本計画のテーマとなっている「動き」。

目指す１０年後の姿の文頭にある「変化をおこす」でも動きを表しています。

基本理念及び目指す１０年後の姿の実現に向け、まちが行政だけではなく、そこに主体的に関わる市内外の人たちであふれることが重要です。

「誰かがやってくれる」ではなく、「自ら行動する」。より良い名張をかたちづくるため、「動き」を本計画のテーマとしました。

この「動き」を持って、これまでの取組を継承、発展させ、ひととまちを大切に重点プロジェクト「おこす」と重要な「動き」を持った７つの基本施策（動詞）を設定しました。

重点プロジェクト



重点プロジェクトのロゴは、基本施策と異なることを表現するため四角形を用い、その中に名張市の地形を配置し、情熱やエネルギーを表す「赤色」を使用しました。

「おこす」とは、ある物事を新しくはじめること、隠れていたものを表に出すこと、静かな状態を刺激し、ある影響をもたらすこと等の意味があります。

また、変化をおこすには挑戦も必要です。

目指す姿の実現のために様々な「おこす」の取組を行います。

７つの基本施策

基本理念及び目指す姿の実現に向け、７つの基本施策は「はぐくむ」、「つなぐ」、「つくる」、「すすめる」、「ささえる」、「ととのえる」、「まもる」のそれぞれ異なる重要な動きを持った動詞を設定しました。施策を推進していくにはひととまちが大切と考えています。ひととまちが基礎となり、それぞれの動きが関わりを持って動くことが必要です。

また、それぞれの動きである施策も、それぞれが関わり、連動することにより力強い動きになります。

それを次のようなロゴで表現しました。



基　本　構　想

第1章　基本構想

4　重点プロジェクトと基本施策

はぐくむ

「はぐくむ」とは、大事に守って育てること。
優しさや愛情を表す「桃色」を使用し、子どもに関する施策や産業の活性化などをはぐくみます。

つなぐ

「つなぐ」とは、引き合わせる、ひとつづきにすること。
希望や明るさを表す「黄色」を使用し、地域の保健・医療・福祉やまちを次世代につなぎます。

つくる

「つくる」とは、形あるものないものに限らず何かを生み出すこと。
温もりや活発さを表す「橙色」を使用し、誰もが幸せに暮らせる社会や農村の新たな価値などをつくります。

すすめる

「すすめる」とは、前進させること、更に高めること。
安定や堅実を表す「茶色」を使用し、消防・救急体制や土地利用などの取組をすすめます。

ささえる

「ささえる」とは、維持すること、支援すること。
安心や信頼を表す「青色」を使用し、健康や地域医療などをささえます。

ととのえる

「ととのえる」とは、点検して望ましい状態にしておくこと。
バランスや成長を表す「黄緑色」を使用し、スポーツ環境や活動の憩いの場となる緑地や公園などをととのえます。

まもる

「まもる」とは、大切なものとして保護する、大事に保つこと。
安全や平和を表す「緑色」を使用し、人権や生活の環境などをまもります。

なばり未来事典
～まちづくりがわかるキーワード集～



「この言葉、どういう意味？」
「私たちの暮らしはどう変わるの？」
そんな疑問に答えるのが、この未来事典です。
言葉を道しるべに、まちづくりの「なぜ？」と「これから」を
一緒に考えてみませんか。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

計画全体を貫く、まちの羅針盤

市の目指す大きな方向性や、計画全体を貫く理念・理想像に関する言葉です。

まちづくりの合言葉

■地域共生社会

ひとことで言うと？

年齢や障害の有無に関わらず、誰もが支え合い、共に生きる社会のことです。

「背景」と「これから」

8050問題やひきこもりなど、制度の狭間で孤立しがちな課題が増えています。分野の垣根を越えた支援体制を整え、誰もが社会から取り残されない、温かい地域づくりを進めます。

■コンパクトシティ

ひとことで言うと？

暮らしに必要な機能を「ぎゅっと」集めた、効率的で住みやすいまちのことです。

「背景」と「これから」

人口が減っていく中で、広い範囲に点在するインフラやサービスを維持するのは困難です。居住エリアやお店、病院などを集約し、将来世代に負担をかけない持続可能なまちを目指します。

■ウェルビーイング（Well-being）

ひとことで言うと？

単に病気ではないという状態だけでなく、身体的・精神的・社会的に満たされた「心豊かな状態や幸福感」のことです。

「背景」と「これから」

人口が減少しても、市民一人ひとりが「名張に住んでよかった」と幸せを実感できることが最も大切です。この計画のすべての取組は、市民の皆さんのウェルビーイング向上につながることを目指しています。

■ポジティブ・シュリンク

ひとことで言うと？

人口減少という現実を悲観的に捉えるのではなく、ポジティブに適応しながら地域社会をより良い方向へ縮小・最適化していく考え方です。
（株式会社4DeeR提唱）

「背景」と「これから」

未来を見据えてインフラや行政サービスを計画的に最適化します。これにより、将来世代の負担を減らし、持続可能なまちの質を維持・向上させます。

■コンパクト・プラス・ネットワーク

ひとことで言うと？

コンパクトなまちの拠点を、公共交通等で「つなぐ」まちづくりの考え方です。

「背景」と「これから」

コンパクトシティの考え方をさらに進め、集約した拠点間をバスなどで結び、移動しやすい環境を作ります。どこに住んでいても、誰もが必要なサービスを受けられるネットワークを構築します。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

まちの変化と、これから乗り越える課題

私たちが今、向き合わなければならない「人口減少」という大きな変化の構造に関する言葉です。

人口減少と私たちの未来

■生産年齢人口の減少

ひとことで言うと？

社会の主な働き手である15歳から64歳までの人口が減っていくことです。

「背景」と「これから」

働き手が減ることで、税収の減少や地域活動の担い手不足など、様々な影響が出ます。DXによる生産性向上や、多様な人材が活躍できる環境づくりが急務です。

■担い手不足

ひとことで言うと？

産業、農業、防災、地域活動など、社会の様々な場面で活動を支える人が足りなくなることです。

「背景」と「これから」

これまで活動の中心を担ってきた世代の高齢化が進み、多くの地域で活動の維持が困難になっています。少ない人数でも活動が継続できるよう、ICTの活用や、地域外の人（関係人口）との連携を促進します。

■自然減・社会減

ひとことで言うと？

人口が減る2つの要因。「亡くなる方が出生数を上回る」ことと、「転出する人が転入者を上回る」ことです。

「背景」と「これから」

本市では、この両方の要因で年間約1,000人のペースで人口が減少しています。この現実を踏まえ、人口が減っても安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。

■定住意向の低下

ひとことで言うと？

「これからも名張市に住み続けたい」と考える人の割合が低くなることです。

「背景」と「これから」

特に進学や就職を迎える若い世代が市外へ転出し、そのまま戻らない傾向があります。魅力ある雇用の場の創出や、子育て世代にとって住みやすい環境を整え、「選ばれるまち」を目指します。

■インフラの老朽化

ひとことで言うと？

道路・水道・公共施設などが古くなり、一斉に更新の時期を迎えることです。

「背景」と「これから」

人口急増期に整備された多くの施設が築30年以上経過しており、今後、莫大な更新費用が必要になります。すべての施設を維持するのは困難なため、計画的な修繕（予防保全）や、施設の統廃合を進める必要があります。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

暮らしを守り、未来を創る「名張の取組」

すすめる　ささえる　ととのえる　まもる

健康・医療・福祉・支え合い

■まちの保健室

ひとことで言うと？

子どもから高齢者など全世代を対象に、健康や福祉、暮らしの困りごとを気軽に相談できる市内15か所に設けた身近な窓口です。

「背景」と「これから」

暮らしの困りごとなど、身近な地域の相談の場が安心につながります。地域包括支援センターと連携し、必要な支援につなぐとともに、住民や関係機関と協力して地域の支え合いを育みます。

■ひきこもり

ひとことで言うと？

様々な要因で、長期間にわたり自宅などに閉じこもり、社会との接点を失った状態のことです。

「背景」と「これから」

ひきこもりは長期化・高齢化する傾向があり、早期の支援が重要です。本人の気持ちを尊重しながら、専門の相談員が訪問支援（アウトリーチ）などを行い、社会とのつながりを再び作るお手伝いをします。

■8050問題

ひとことで言うと？

80代の親が、ひきこもり等の50代の子どもの生活を支える、という社会問題です。

「背景」と「これから」

親が亡くなったり介護が必要になったりすると、親子ともども生活が困窮するリスクがあります。分野横断の「重層的支援体制」を整え、世帯全体を社会的に孤立させない支援を行います。

■アウトリーチ（訪問による相談支援）

ひとことで言うと？

相談に来るのを待つのではなく、支援が必要な方の元へ職員が出向いていく支援方法です。

「背景」と「これから」

ひきこもりや育児不安など、自ら助けを求められない方が増えています。専門職が家庭などを直接訪問し、早期に課題を発見し、必要な支援につなげていきます。

■重層的支援体制

ひとことで言うと？

複雑な課題を抱える人を、複数の機関がチームとなって「丸ごと」支える仕組みです。

「背景」と「これから」

「介護」と「貧困」、「障害」と「ひきこもり」など、課題が複雑に絡み合う世帯が増えています。市の相談窓口が中心となり、分野を越えて連携し、切れ目のない支援を届けます。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

暮らしを守り、未来を創る「名張の取組」

すすめる　ささえる　ととのえる　まもる

■介護予防

ひとことで言うと？

元気なうちから運動や社会参加を心がけ、要介護状態になるのを防ぐ取組です。

「背景」と「これから」

高齢になっても自分らしく元気に暮らすためには、日頃からの介護予防が重要です。「通いの場」への参加などを通じて、高齢者が心身の健康を保ち、いきいきと暮らせるまちを目指します。

■健康寿命

ひとことで言うと？

介護などに頼らず、自立して健康に生活できる期間のことです。

「背景」と「これから」

長生きするだけでなく、生涯にわたって生き生きと暮らせることが大切です。市民一人ひとりの健康づくりや介護予防への取り組みを支援し、誰もが元気に活躍し続けられる社会を目指します。

■通いの場

ひとことで言うと？

高齢者などが身近な場所に集まり、体操や交流を楽しむ活動拠点のことです。

「背景」と「これから」

家に閉じこもりがちになると、心身の機能が低下しやすくなります。住み慣れた地域内で気軽に集える「通いの場」を増やすことで、介護予防と、住民同士の支え合いの輪を広げます。

■QOL（生活の質）

ひとことで言うと？

日々の暮らしの快適さや、満足度のことです。

「背景」と「これから」

病気でないだけでなく、生きがいを持って社会とつながり、自分らしい生活を送れることが重要です。介護予防や社会参加の機会を増やすことで、市民一人ひとりの生活の質を高めていきます。

■まちじゅう元気!!リーダー

ひとことで言うと？

地域で介護予防や健康づくりの活動を広める、市民ボランティアのことです。

「背景」と「これから」

行政主導だけでなく、住民が主体となって健康づくりを進めることが大切です。市が開催する養成講座を受けたリーダーが、地域の「通いの場」などで体操などをいっしょに行い、健康の輪を広げます。

■二次救急医療体制

ひとことで言うと？

入院や手術が必要な患者に対応する救急医療体制です。

「背景」と「これから」

市民が休日や夜間にも安心して医療を受けられる体制は、安全な暮らしの基盤です。市立病院を中心に地域の医療機関と連携し、24時間365日の救急医療体制を守ります。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

暮らしを守り、未来を創る「名張の取組」

すすめる　ささえる　ととのえる　まもる

■周産期医療体制

ひとことで言うと？

妊娠、出産、産後から新生児期まで、母と子を守るための医療の仕組みのことです。

「背景」と「これから」

近隣市の医療機関への支援や関係機関との連携強化等による緊急時の搬送体制の整備などにより、安全・安心に出産できる環境づくりを進めています。

■障害者虐待防止センター

ひとことで言うと？

障害のある人への虐待に関する通報や相談を受け付け、その権利を守る専門機関です。

「背景」と「これから」

障害のある人への虐待は、家庭や施設など、外部から見えにくい場所で起こる可能性があります。虐待の早期発見と対応、そして未然に防ぐための啓発活動を行い、障害のある人が安心して暮らせる社会を守ります。

■スマートウェルネスシティ

ひとことで言うと？

健康で幸せに暮らせるまちを地域全体でつくる取組です。

「背景」と「これから」

「健幸」とは、健康であるだけでなく、心豊かに幸せに暮らせることです。特別に意識をせずとも、日常の買い物、通勤、通学、通院、地域活動などを通じて歩き、人と交流するなど、自然に健康づくりにつながる環境を整え、誰もが自分らしく暮らし続けられるまちを目指します。

■社会的孤立

ひとことで言うと？

家族や友人、地域などとのつながりが薄れ、必要な支援にもつながりにくくなっている状態のことです。

「背景」と「これから」

社会的孤立は、心身の健康や生活にさまざまな影響を及ぼすことがあります。誰もが地域とのつながりを持ち、困ったときに相談や支援につながることができるよう、多様な世代が集える「通いの場」や「第三の居場所」づくりを進め、人と人との自然なつながりを育みます。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

暮らしを守り、未来を創る「名張の取組」

すすめる　ささえる　ととのえる　まもる

安全・生活基盤

■福祉避難所

ひとことで言うと？

災害時に、一般の避難所では生活が難しい高齢者や障害者などが、安心して避難できる特別な避難所です。

「背景」と「これから」

高齢者福祉施設などをあらかじめ「福祉避難所」として指定しておくことで、災害時に配慮が必要な方を迅速に受け入れ、専門的なケアを提供できる体制を整えます。

■空き家バンク

ひとことで言うと？

市内の空き家を「売りたい・貸したい人」と「買いたい・借りたい人」をつなぐ、市の情報サイトです。

「背景」と「これから」

空き家は、移住を希望する人にとっては魅力的な資源となり得ます。空き家の流通を促進することで、地域の活性化と、管理不全な空き家の発生予防につなげます。

■個別避難計画

ひとことで言うと？

災害時に自力で避難することが難しい高齢者や障害者一人ひとりについて、避難方法などをあらかじめ決めておく計画です。

「背景」と「これから」

災害時に「逃げ遅れ」による犠牲者を出さないためには、日頃からの備えが不可欠です。民生委員や地域住民と連携し、支援が必要な方の計画作成を進め、いざという時に確実に避難できる体制をつくります。

■管理不全な空き家

ひとことで言うと？

適切に管理されず、倒壊の危険や、景観・衛生上の問題を引き起こしている空き家のことです。

「背景」と「これから」

人口減少や高齢化により、管理が行き届かない空き家が増え、地域の安全を脅かしています。市では所有者に対し適切な管理を指導するとともに、発生予防の取組も併せて行い、危険な空き家の解消を進めます。

■セーフティネット住宅

ひとことで言うと？

高齢者や障害者、子育て世帯など、住まい探しに配慮が必要な方の入居を拒まない、民間の賃貸住宅のことです。

「背景」と「これから」

住宅の確保が難しい方々が、安心して暮らせる住まいを見つけられる環境が必要です。市では、セーフティネット住宅として登録された物件の情報提供などを行っています。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

暮らしを守り、未来を創る「名張の取組」

はぐくむ　つなぐ　つくる

子育て・教育

■名張あんしん出産・子育て応援事業

ひとことで言うと？

市内で安心して出産・子育てができる環境を守るため、市が独自に始めた4つのサポート事業の総称です。

「背景」と「これから」

2025年1月に市内で唯一出産に対応していた産婦人科が分娩を取りやめたことを受け、市民の皆さんの不安を少しでも取り除くために創設されました。今後も市民の声を聞きながら、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに取り組みます。

■第三の居場所

ひとことで言うと？

家庭でも学校でもない、子どもたちが安心して過ごせる「第3の心安らぐ場所」のことです。

「背景」と「これから」

孤立しがちな子どもや、困難を抱える家庭の子どもたちにとって、信頼できる大人と出会い、安心して過ごせる場所があることは非常に重要です。利用者である子ども・若者の声を聴きながら運営を進めていきます。

■名張版ネウボラ

ひとことで言うと？

妊娠期から子育て期まで、保健師などが一貫して寄り添い、切れ目なく支援する仕組みです。

「背景」と「これから」

「どこに相談すればいいか分からない」という不安を解消し、孤立を防ぎます。すべての妊婦や子育て家庭と面談し、一人ひとりに合わせたプランで、必要な情報やサービスにつなげます。

■プレコンセプションケア

ひとことで言うと？

若い頃から自分の身体と向き合い、健康を維持することです。

「背景」と「これから」

現在の健康づくりとQOLの向上を支援するとともに、将来の病気や健康リスクを予防します。さらに、将来の健やかな妊娠、出産につながる健康管理を促進します。

■保育ICTシステム

ひとことで言うと？

アプリなどを使って、保育園と保護者の連絡や、保育士の事務作業を効率化する仕組みです。

「背景」と「これから」

保護者の利便性向上と、保育士の事務負担軽減が課題です。欠席連絡の電子化や、園からのお知らせ配信などで保護者の利便性を高めるとともに、保育士が子どもと向き合う時間を増やします。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

暮らしを守り、未来を創る「名張の取組」

はぐくむ　つなぐ　つくる

■医療的ケア（児）

ひとことで言うと？

たんの吸引や経管栄養など、日常的に医療的なケアが必要な子ども（とそのケア）のことです。

「背景」と「これから」

医療の進歩により、ケアを必要としながら地域で暮らす子どもが増えています。看護師を保育所等に配置するなど、医療的ケア児が安全に生活を送り、共に育つ環境を整備します。

■自己肯定感

ひとことで言うと？

「自分には良いところがある」と思える、子どもたちの心の土台のことです。

「背景」と「これから」

不登校の増加など、子どもたちが困難を抱える現代において、自己肯定感を育むことは未来を生きる力になります。一人ひとりに合った学びや多様な経験を通じて、誰もが自信を持って成長できる教育を目指します。

■学校給食センター

ひとことで言うと？

市内の小中学校の給食を衛生的に調理し、配送する施設です。

「背景」と「これから」

市民の長年の願いであった中学校給食を実現するため、PFI方式での整備を進めています。栄養バランスの取れた温かい給食を提供し、子どもたちの健やかな成長と食育を推進します。

■主体的・対話的で深い学び

ひとことで言うと？

知識を覚えるだけでなく、仲間と対話し、自ら課題を見つけて探究していく学習方法です。

「背景」と「これから」

答えのない問いに向き合う力が、これからの社会では求められます。子どもたちが自ら学ぶ楽しさを知り、生涯にわたって学び続ける意欲を育みます。

■教育支援センター（さくら教室）

ひとことで言うと？

様々な理由で学校に通えなくなった子どもたちが、安心して過ごし、学習できる場所です。

「背景」と「これから」

不登校の児童生徒が年々増加しており、学校以外の多様な学びの場の確保が重要です。子どもたちの心の安定を図りながら、一人ひとりの状況に合わせて学習支援や社会的な自立に向けた支援を行います。

■放課後子ども教室

ひとことで言うと？

放課後や休日に小学校の余裕教室などを活用し、地域の方々の協力で、子どもたちに安全な遊びや学びの場を提供する事業です。

「背景」と「これから」

共働き家庭の増加などにより、放課後等の子どもの安全な居場所づくりが求められています。地域の大人と交流しながら、宿題や多様な体験活動ができる環境を整えます。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

暮らしを守り、未来を創る「名張の取組」

はぐくむ　つなぐ　つくる

■中学校部活動の地域展開

ひとことで言うと？

これまで学校単位で行ってきた部活動を、地域のスポーツクラブなどに段階的に移行していくことです。

「背景」と「これから」

少子化による部員数の減少や、教員の負担増といった課題に対応する必要があります。子どもたちが専門的な指導を受け、多様なスポーツに親しめる持続可能な活動環境を整備します。

■生涯学習ネットワーク

ひとことで言うと？

市民の「学びたい」という気持ちに応えるため、市内の学習機会や情報を結びつける仕組みです。

「背景」と「これから」

年齢に関わらず誰もが学び続け、その成果を地域で活かすことが重要です市民の学びと活動を応援し、個人の生きがいと地域全体の活力を創出できる環境を整えます。

■地域学校協働活動推進員

ひとことで言うと？

学校と地域住民や団体をつなぎ、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える活動を企画・調整する人です。

「背景」と「これから」

学校だけで子どもを育てるのではなく、地域社会全体で教育に関わっていくことが重要です。コーディネーター役として、学校のニーズと地域の力を結びつけ、子どもたちの豊かな学びを実現します。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

暮らしを守り、未来を創る「名張の取組」

はぐくむ　つなぐ　つくる

人権・多様性

■性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性

ひとことで言うと？

どのような人を好きになるか、また、自分の性別をどのように認識するかは、一人ひとり異なるということです。

「背景」と「これから」

性のあり方は多様であり、性的指向やジェンダーアイデンティティを理由とする偏見や差別をなくすことが求められています。誰もが互いの違いを認め合い、自分らしく安心して暮らせる社会を目指し、市民や事業者などの理解を深める取組を進めます。

■共生社会

ひとことで言うと？

国籍や文化の違いを認め合い、共に豊かに暮らしていく社会のことです。

「背景」と「これから」

外国人住民が増える中、文化や習慣の違いを理解し合うことが、安心して暮らせる地域づくりにつながります。相談・通訳・翻訳の支援や日本語教室、交流の機会などを通じて、互いの理解を深め、多様性をまちの強みにしていきます。

■インターネット上の人権侵害

ひとことで言うと？

SNSなどネット上で、特定の個人を傷つけたり、差別的な書き込みをしたりすることです。

「背景」と「これから」

顔が見えないネット空間では、誹謗中傷が深刻化しやすくなっています。市では不適切な書き込みの監視を行うとともに、子どもたちへの情報モラル教育などを通じて、被害者も加害者も生まない社会を目指します。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

暮らしを守り、未来を創る「名張の取組」

はぐくむ　つなぐ　つくる

産業・しごと・にぎわい

■地域づくり組織

ひとことで言うと？

概ね小学校区を単位として、住民が主体となり、その地域の課題解決や魅力向上に取り組む自治組織です。

「背景」と「これから」

名張市が進める「地域内分権」の中核を担う組織です防犯防災や環境美化、イベント開催など、地域の特性を活かした活動を通じて、住みよい地域を創っています。

■地域内分権

ひとことで言うと？

「自分たちのまちは自分たちでつくる」という、住民主体の地域づくりのことです。

「背景」と「これから」

名張の強みである市民主体のまちづくりを発展させ、地域の課題解決や魅力向上につなげます。地域づくり組織の活動が活発になることで、地域の個性やにぎわいを生み出す原動力となります。

■オープンファクトリー

ひとことで言うと？

普段は見ることができないものづくりの現場（工場）を、期間限定で一般公開するイベントです。

「背景」と「これから」

市内の企業の高い技術力や魅力を、市民や子どもたちに知ってもらう絶好の機会です。将来の担い手育成や、企業のイメージアップ、新たなビジネスチャンスの創出につなげます。

■IGAGREEN（いがぐりーん）

ひとことで言うと？

伊賀地域で環境に配慮した農業で作られる農産物として一定の基準に該当する農産物の統一ブランド名です。

「背景」と「これから」

本市は、「オーガニックビレッジ宣言」を行い、地域ぐるみで有機農業に取組んでいます。有機農業で生産された農産物をはじめ、環境への負担を減らす努力を「見える化」することで、地元の農業を活性化させ、未来へつないでいきます。

■観光地域づくり法人（DMO）

ひとことで言うと？

地域の観光資源を活かし、稼げる観光地にするための戦略を立て、実行する専門組織です。

「背景」と「これから」

多様な関係者と連携し、科学的なデータに基づいて観光戦略を立てることが重要です。市では「（一社）名張市観光協会」がその役割を担い、観光消費額の増加や関係人口の拡大を目指します。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

暮らしを守り、未来を創る「名張の取組」

はぐくむ　つなぐ　つくる

■二地域居住

ひとことで言うと？

都市と農村など、2つの地域に生活拠点を持ち、行き来するライフスタイルです。

「背景」と「これから」

都市の利便性と、豊かな自然環境の両方を求めるニーズが高まっています。名張の自然やアクセスの良さを活かし、都市部住民の「第二のふるさと」となることで、新たな人の流れや関係人口の創出を目指します。

■インナープロモーション / アウタープロモーション

ひとことで言うと？

インナーは「市民向け」、アウターは「市外向け」の魅力発信（シティプロモーション）活動です。

「背景」と「これから」

まず、市民自身がまちへの愛着や誇りを育むインナープロモーションが全ての土台です。市民が主役となってまちの魅力を語り、発信する活動が活発になることで、それが最も効果的なアウタープロモーションにつながります。この好循環を生み出し、関係人口の拡大や「選ばれるまち」の実現を目指します。

■関係人口

ひとことで言うと？

移住者でも観光客でもない、名張を応援してくれる「まちのファン」のことです。

「背景」と「これから」

人口減少が進む中、地域外から多様な形で地域に関わってくれる人々とのつながりが、まちの活力になります。イベント参加や特産品の購入などを通じて、継続的に名張と関わるファンを増やしていきます。

■なばらぶ指数

ひとことで言うと？

市民の皆さんの「名張愛」をあらわす、まちづくりへの共感度の指標です。

「背景」と「これから」

「このまちを勧めたい」「活動に参加したい」という市民の思いが、まちの元気の源です。市民が主体となった魅力発信（シティプロモーション）などを通じ、まちへの愛着と誇りを育むことで、この指数を高めていきます。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

暮らしを守り、未来を創る「名張の取組」

はぐくむ　つなぐ　つくる

持続可能な都市の姿

■地域コミュニティバス

ひとことで言うと？

市街地の拠点や公共施設、病院などを結び、市民の日常生活を支えるバス路線です。

「背景」と「これから」

高齢者など、車の運転が難しい市民にとって、コミュニティバスは不可欠な移動手段です。利用状況を見ながら、誰もが移動しやすい持続可能な公共交通ネットワークの維持に努めます。

■都市マスタープラン

ひとことで言うと？

概ね20年後を見据えた、まちの将来像や土地利用、都市施設の整備方針などを示す、都市計画の最も基本となる計画です。

「背景」と「これから」

無秩序な開発を防ぎ、快適で機能的なまちづくりを進めるための基本的な設計図です。「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えに基づき、人口減少社会に対応した持続可能なまちの姿を描きます。

■ゼロカーボンシティ

ひとことで言うと？

2050年までに、二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指す取組です。

「背景」と「これから」

地球温暖化対策は世界的な課題であり、私たちの暮らしを守るためにも重要です。ごみの減量や省エネなどを推進し、環境に優しく、持続可能な社会を次世代へ引き継ぎます。

■公共ライドシェア

ひとことで言うと？

地域の住民が自家用車等を使い、他の住民を有償で送迎する、新しい交通サービスのことです。

「背景」と「これから」

バス路線がない地域や、高齢で運転が難しくなった方の移動手段を確保することが喫緊の課題です。地域コミュニティバスなどを補完する移動手段として、一部地域で導入されています。

■立地適正化計画

ひとことで言うと？

「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを、具体的に進めるための計画です。

「背景」と「これから」

住宅が集まるエリア（居住誘導区域）や、お店・病院などが集まるエリア（都市機能誘導区域）を定め、人口減少下でも生活サービスやコミュニティを維持していくことを目指します。

なばり未来事典　～まちづくりがわかるキーワード集～

「暮らしを守り、未来を創る」取組を支える土台

市の取り組みを持続可能な形で進めていくための、行政自身の運営や、民間・市民との連携の仕組みに関するキーワードです。

これからの行政経営とパートナーシップ

■定住自立圏

ひとことで言うと？

中心となる市と、その周りの市町村が連携し、地域全体の暮らしを支える仕組みのことです。

「背景」と「これから」

人口減少が進む中、一つの市町村だけで全てのサービスを高い水準で維持することは困難です。本市では、周辺市町村と「伊賀城和定住自立圏」を形成し、圏域全体で必要な生活機能を確保する取り組みを進めています。

■公共施設マネジメント

ひとことで言うと？

市が保有するすべての公共施設を、まちづくり全体の視点から最適に管理・運営していくことです。

「背景」と「これから」

多くの施設が老朽化する中、個別の修繕だけでなく、施設の統廃合や複合化、長寿命化などを総合的に計画する必要があります。将来世代に過大な負担を残さないため、ストックマネジメントの考え方で取り組みます。

■公民連携（PPP）

ひとことで言うと？

公共（Public）と民間（Private）が対話やパートナーシップにより連携（Partnership）して、公共サービスを提供することです。

「背景」と「これから」

行政だけでは解決できない課題に対し、行政と民間が、それぞれの強みやノウハウを活用することで、より質の高いサービスが実現できます。多様な主体との連携を発展させ、新たな価値を共に創り出します。

■DX（デジタルトランスフォーメーション）

ひとことで言うと？

デジタル技術を活用して、行政サービスや業務のやり方を根本から変えることです。

「背景」と「これから」

限られた職員数で多様な市民ニーズに応えるには、業務の効率化が不可欠です。オンライン手続きの拡充やAIの活用などを進め、市民の利便性向上と、創造的な業務への注力を目指します。

■財政調整基金

ひとことで言うと？

年度によって生じる財源の不均衡を調整するための、市の「貯金」のことです。

「背景」と「これから」

税収が落ち込んだり、災害対応などで予期せぬ支出が必要になったりした際に、この基金を取り崩して対応します。将来の財政需要に備え、計画的に基金を確保していくことが、安定した行政運営に不可欠です。

第2次基本計画策定のあゆみ

令和8年

9月1日	第1回名張市総合計画審議会　諮問
10月6日	第2回名張市総合計画審議会
11月20日	名張市議会全員協議会(「なばり新時代戦略　第2次基本計画」(素案)にかかるパブリックコメントの実施について
11月24日～12月21日	パブリックコメント実施(結果:　人　　件)

令和9年

1月13日	第3回名張市総合計画審議会
1月18日	名張市総合計画審議会　答申

計画の策定にあたっては、審議会やパブリックコメントでのご意見に加え、市長と若者・学生などとの意見交換会、市民意識調査、固定資産税の税率見直しに係る市民説明会など、様々な機会を通じていただいたご意見も参考にしました。

名張市総合計画審議会　委員名簿

会長	**石阪　督規**	学識経験者	（埼玉大学キャリアセンター長／教授）
副会長	**古谷　久人**	地域づくり	（地域づくり代表者会議　会長）
委員	**井上　隆稔**	住宅・不動産	（株式会社井上不動産）
委員	**北森　仁美**	教育・まちづくり	（教育委員／（一社）つなぐ　代表理事）
委員	**草部　豊美**	子育て・地域福祉	（おじゃまる広場　副代表）
委員	**中平　恭之**	交通	（近畿大学工業高等専門学校　教授）
委員	**藤田　ちはる**	産業・女性の活躍	（中西金属株式会社）
委員	**水谷　祐哉**	健康づくり	（理学療法士・リンクワーカー／ちぃちかけん事務局長）
委員	**山口　貴一**	市民公募	
委員	**渡邊　航平**	市民公募	

諮問・答申

諮問書

答申書

「暮らしやすさと幸福が実感できるまち」へ

